あなたの事業コンシェルジュへ。
弥生

「スマート取引取込」（学習用）操作手順書

この手順書で操作体験が行える期間は
以下になります。
令和６年４月１日～令和７年３月31日
（2024年４月１日～2025年３月31日）

※　上記期間より後に学習される方は、学習キットを改めてダウンロードしてください。

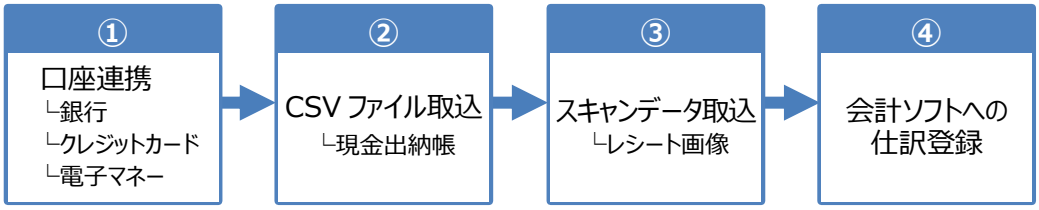
本操作手順書は、2024 年 3 月時点で提供中のサービスや最新製品をもとに作成しています。そのため、サービスの追加や機能アップ等により内容が変更される場合も生じますことを、あらかじめご了承ください。
弥生認定インストラクター試験対策としての学習に支障はございません。

はじめに

この操作手順書は「スマート取引取込」を使って取引データを取り込み、会計ソフトに仕訳を登録する手順を説明しています。
実際に取り込む銀行明細やCSVファイル、レシート画像などのサンプルをご用意していますので、ご自身のPCで体験して、「スマート取引取込」の基本操作や基本機能の習得にお役立てください。

1.学習内容と順序

本手順書では以下の内容で学習を進めます。



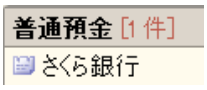
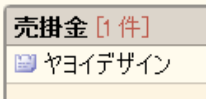
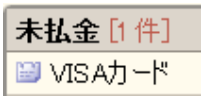
2.学習前の準備

学習にあたり、以下 3 つをご準備ください。

◆ 取込用のサンプルファイル
└本手順書と同じ zip ファイルに格納しています。ご自身の PC の任意の場所に保存しておいてください。

◆ 事業所データの作成
└学習を開始する日が含まれる期間を下表で確認して、指定された内容で事業所データを作成してください。
└事業所データに以下の補助科目と部門を設定してください。

指定のないものは初期値とする

学習開始日※が含まれる期間	事業所データ	補助科目	部門
令和 6 年 4 月～ 令和 6 年 9 月	科目体系 ：法人 事業所名 ：任意 決算期 ：任意 期首日 ：令和 6 年 1 月 1 日	流動資産「普通預金」  売上債権「売掛金」  他流動負債「未払金」  	 ※ 「営業 1 課」「営業 2 課」の数字は半角で登録してください ※ スタンダード、青色申告をご利用の場合は設定不要です
令和 6 年 10 月～ 令和 7 年 3 月	科目体系 ：法人 事業所名 ：任意 決算期 ：任意 期首日 ：令和 6 年 7 月 1 日		

※ 「学習開始日」とは、「1. 学習内容と順序」で示した①の学習をスタートする日のことを指します。

学習をスタートしたら、練習用データの都合上、①の学習を上記の期間内に終えてください。 ②以降は上記の期間を過ぎても構いません。作成した事業所データをそのまま使用し、ご自分のペースで②以降の学習を進めてください。

【繰り返し学習する場合】
①～④の学習が終わり、繰り返し操作を行う方は新たな事業所データを作成してください。

◆ デスクトップの「弥生マイポータル」へのログイン

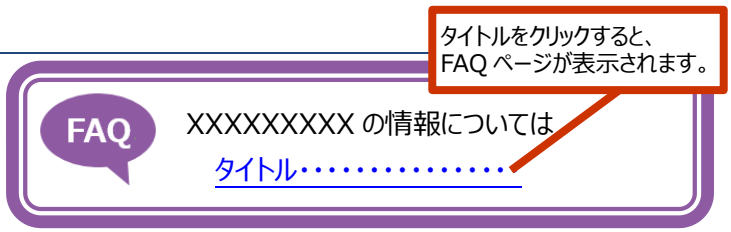
└あなたの「弥生 ID」で「弥生 マイポータル」にログインしてください。

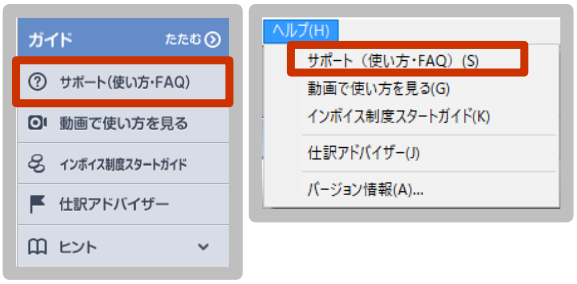
ログインしておくと、スマート取引取込のメニューを選択したときにログイン画面を表示することなく起動することができます。

3.注釈の FAQ について

本手順書の内容にプラスして学習することにより、さらに理解を深めていただける FAQ をご紹介します。

本書を紙に印刷した方は、下記メニューから「製品サポート」ページを開き、FAQ タイトルを入力して検索してください。





4.スマート取引取込の起動方法

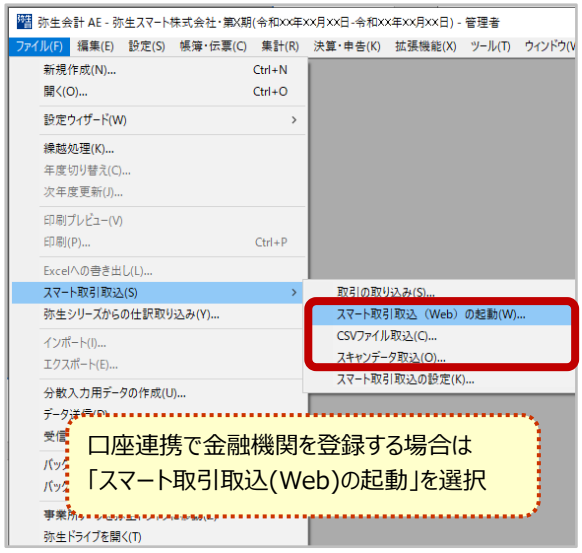
【ご注意】学習用の事業所データが選択されていることを確認した上で起動してください。

「スマート取引取込」の起動方法は、使用中の会計製品や「スマート取引取込」の利用状況によって異なります。

（関連 FAQ ：スマート取引取込に関する環境設定）

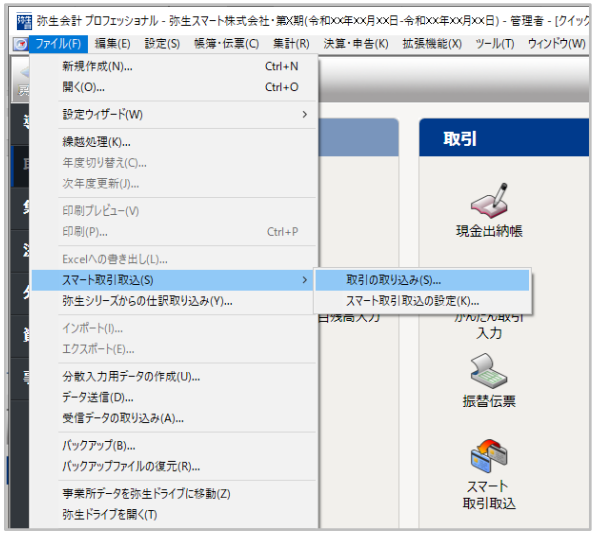
弥生会計 AE
※ 弥生 PAP 会員専用製品

メニュー「スマート取引取込」を選択

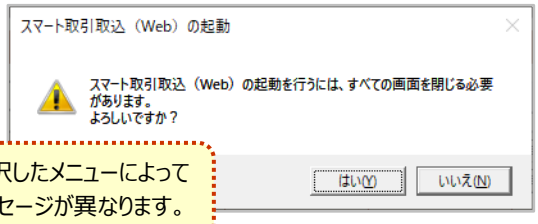


弥生会計 プロフェッショナル、弥生会計 スタンダード、やよいの青色申告

メニュー「取引の取り込み」、もしくはアイコンを選択

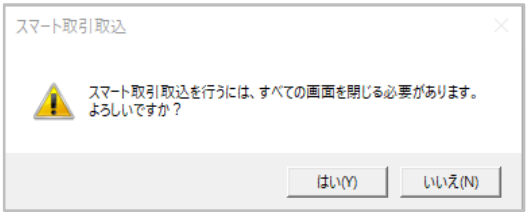


メッセージが表示された場合は「はい」をクリック



選択したメニューによって
メッセージが異なります。

メッセージが表示された場合は「はい」をクリック



以下画面が表示された場合は「今すぐ使ってみる」をクリック

選択したメニューにより表示される画面が異なります

CSVファイル取込	スキャンデータ取込	スマート取引取込(Web)の起動<口座連携>
取り込む画面が表示されます。	取り込む画面が表示されます。	右図と同じ画面が表示されます。

利用状況により表示される画面が異なります

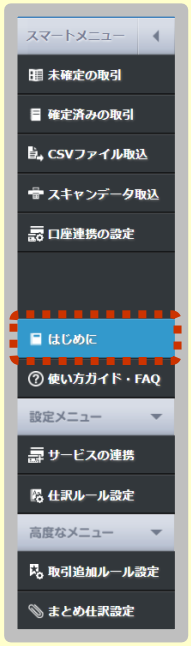
※「はじめに」画面が表示されない場合は、左記＜補足＞参照

＜補足＞

「はじめに」の画面は初めてスマート取引取込を利用する際に表示されます。

既に別のサービスでスマート取引取込を利用している場合は、画面左に表示される「スマートメニュー」（右図）から選択します。

※ 「はじめに」をクリックすると、再度「はじめに」画面を表示することができます。



「はじめに」の内容が確認できたら学習をはじめましょう！　まずは口座連携からです。

口座連携

銀行やクレジットカード、電子マネーなどの金融機関と連携して、インターネット経由で入出金の明細データを取り込み、取引データを作成します。

取り込みした取引データは［未確定の取引］に表示されます

口座連携の学習が終わったら、取引データが表示されることを確認しましょう

※ 勘定科目は摘要の文字列をもとに推論するため、取り込むタイミングにより表示される科目が異なることがあります。この時点で科目が異なっていても間違いではありません。

＜口座連携設定の流れ＞

口座連携の設定画面を表示する → 金融機関を登録する → 自動更新時間を設定する → 取込開始日を設定する → 取り込みを実行する → 未確定の取引へ

学習ではサンプルの金融機関を 3 つ登録します。

・弥生銀行
・弥生クレジットカード
・弥生電子マネー

学習日により「取込開始日」を変えて取り込みします。
「取込開始日」は手順内に記載していますので、指示に従ってください。

準備ができたら、さっそく登録してみましょう。

金融機関の登録は 1 つずつ行います。まずは「弥生銀行」を登録します。

操作手順

1. スマート取引取込を起動して、「口座連携の設定」の「設定」をクリックします。

「はじめに」の画面が表示されない場合は、P2 の「4.スマート取引取込の起動方法」を参照して表示してください。

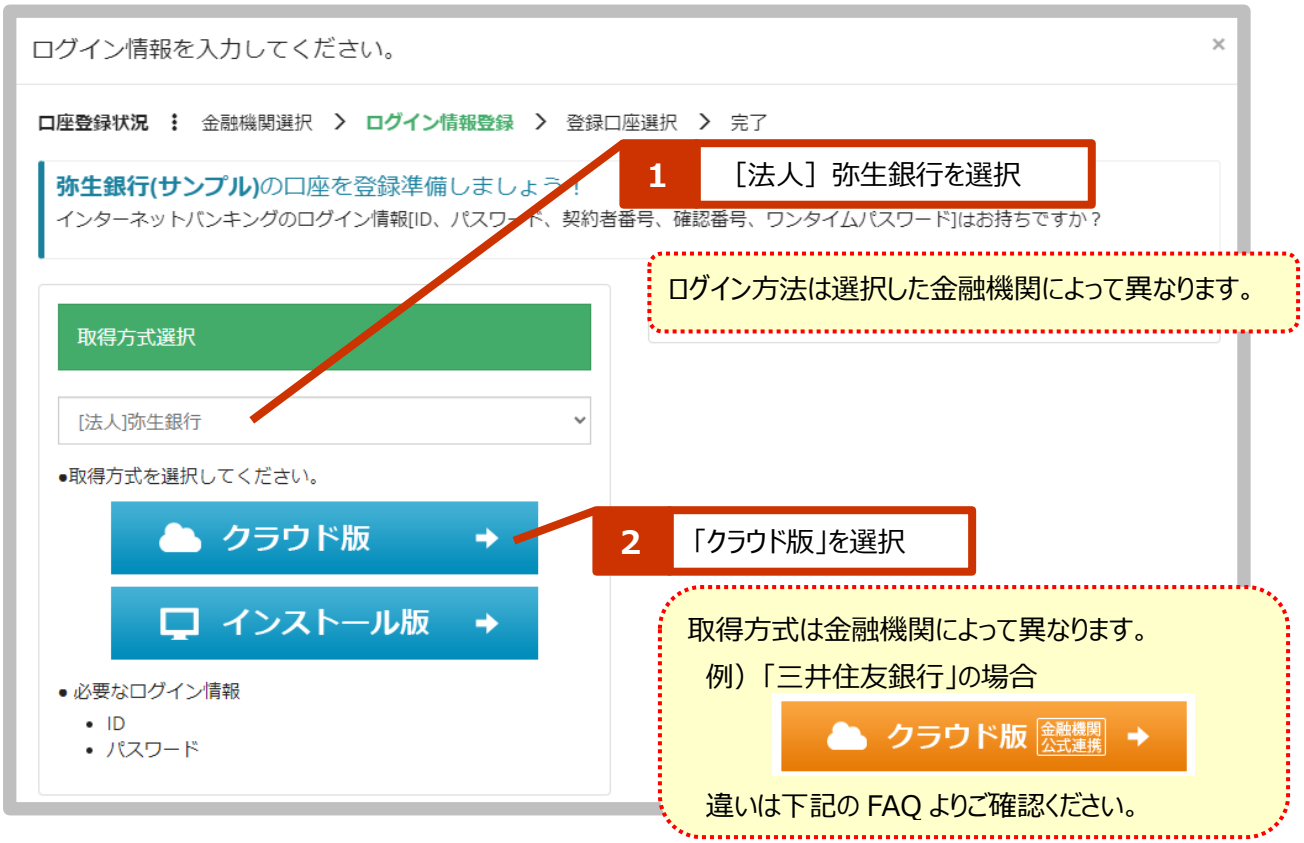
2. ログイン画面に進み、「弥生 ID」でログインします。

3. 連携の許可に同意します。

4. 新規口座登録を選択します。

5. カテゴリを「銀行」にして、「弥生銀行(サンプル)」を選択します。

6. ログインする方法と取得方式を選択します。



FAQ

取得方式の種類と違いについてはこちら（クリックすると FAQ ページが表示されます）

「口座連携の設定」での利用明細の取得方式

金融機関の登録（API 連携に対応した口座）

FAQ ページが表示されない場合は、こちらをクリックして、キーワードで検索してください。

7. 金融機関へのログイン情報を入力します。

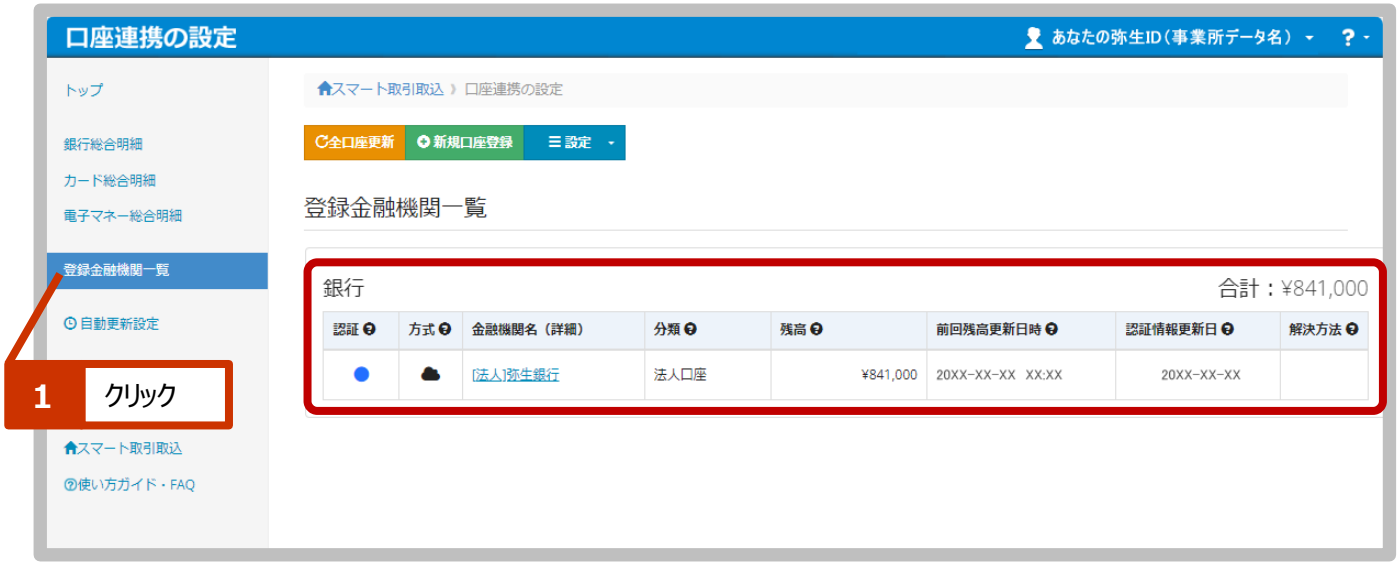
※ ここで使用する ID とパスワードは、弥生銀行（サンプル）を登録する場合のログイン情報です。
実運用をしている金融機関を設定する際には、金融機関のサイトへアクセスする際のログイン情報を設定します。

8. 分類と登録口座を選択します。

9. 「明細取得へ」をクリックします。

10.「明細取得開始」をクリックします。

11. ［登録金融機関一覧］を選択して、「弥生銀行」が登録されていることを確認します。

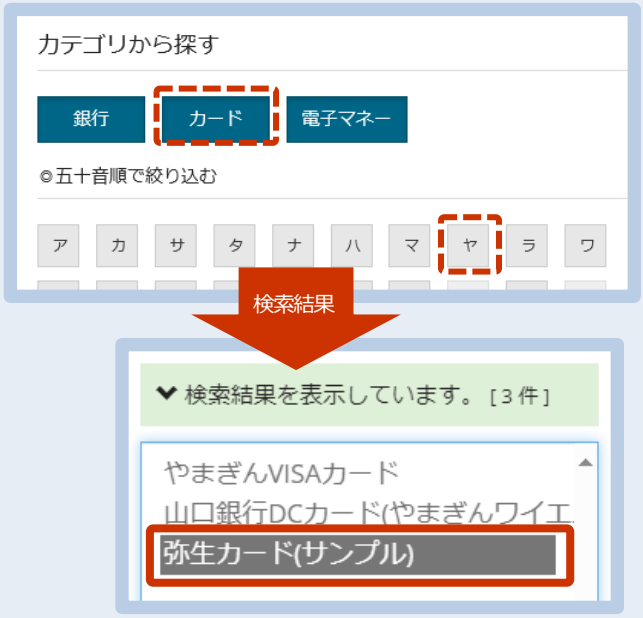


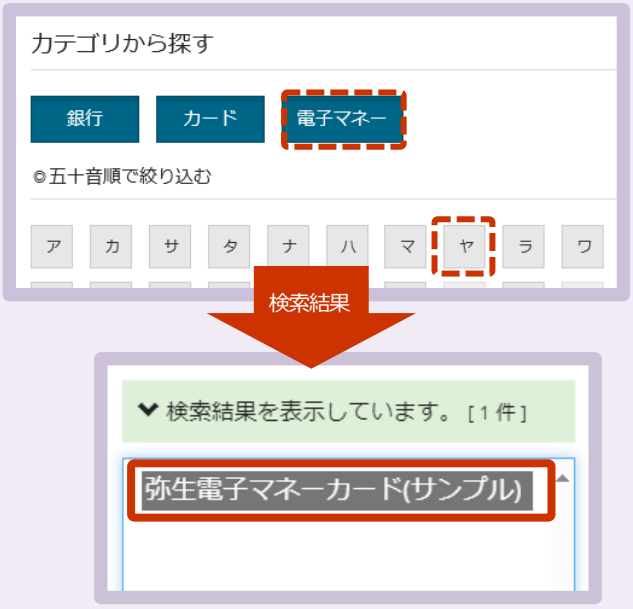
<u>以上で、金融機関 1 件の登録は完了です。</u>

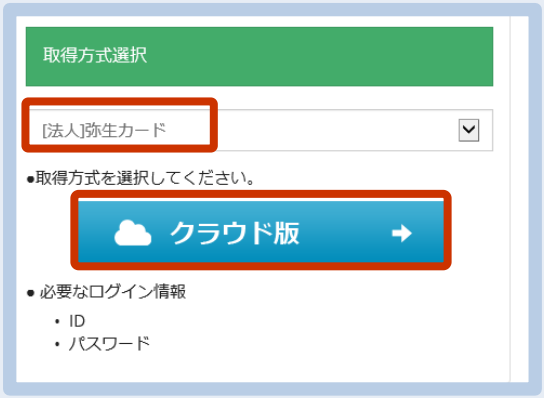
他の金融機関を登録する場合は 新規口座登録 をクリックして、P6 の手順 5 からの作業を繰り返します。

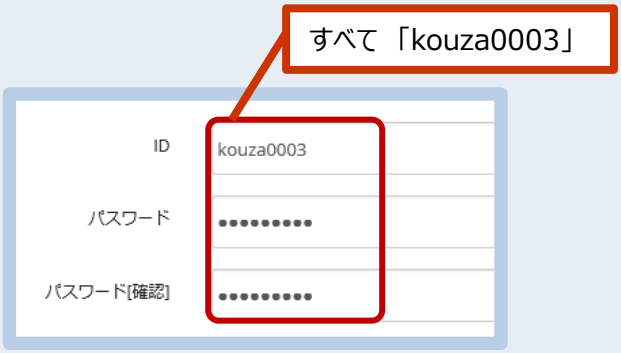
この手順書での学習では、続いて「弥生クレジットカード」と「弥生電子マネー」 を登録します。
手順 5～8 の選択項目や入力項目は次ページにまとめて記載しています。参照しながら、「弥生クレジットカード」と「弥生電子マネー」を登録してください。

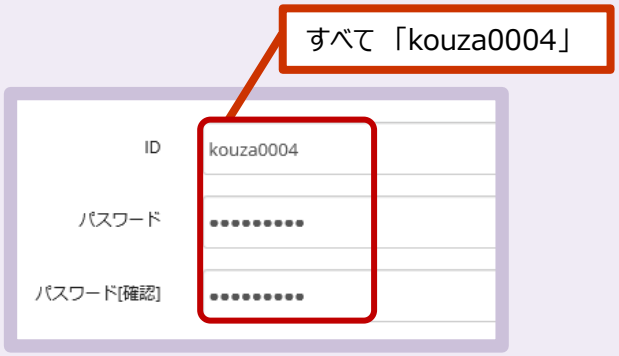
弥生カード	弥生電子マネー











＜登録完了イメージ＞

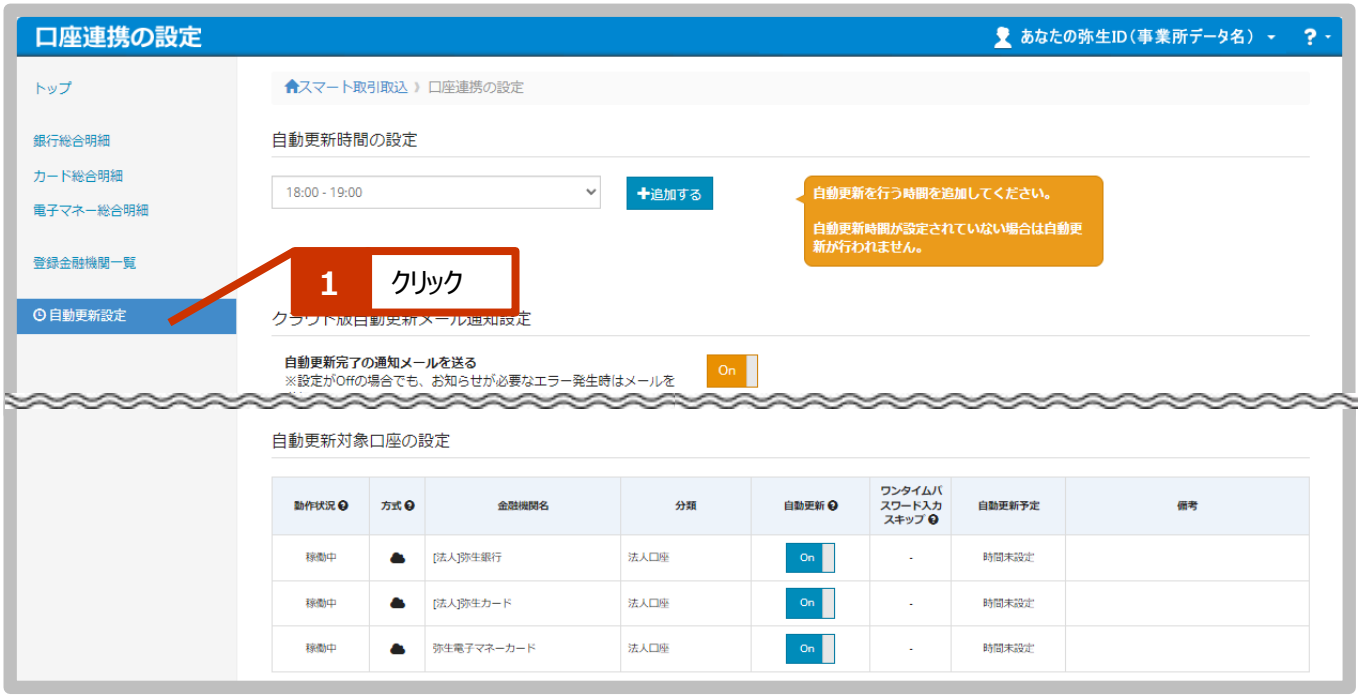
FAQ 知識を深めるために合わせて学習しよう（クリックすると FAQ ページが表示されます）

- スマート取引取込で連携できる金融機関
- 金融機関と連携するための準備
- 「口座連携の設定」の概要
- ログイン履歴を確認したい
- 利用履歴を確認したい
- 登録した金融機関の削除

FAQ ページが表示されない場合は、こちらをクリックして、キーワードで検索してください。

登録ができたら、その他の設定を行います。

12. ［自動更新設定］を選択します。



13. 自動更新の時間を設定します。

この手順書での学習では自動更新時間を設定しましたが、取得方式によっては設定が不要な場合があります。また、設定項目が異なるほか、自動更新のタイミングや自動更新後の通知メールにも違いがあります。詳細は FAQ でご確認ください。

FAQ

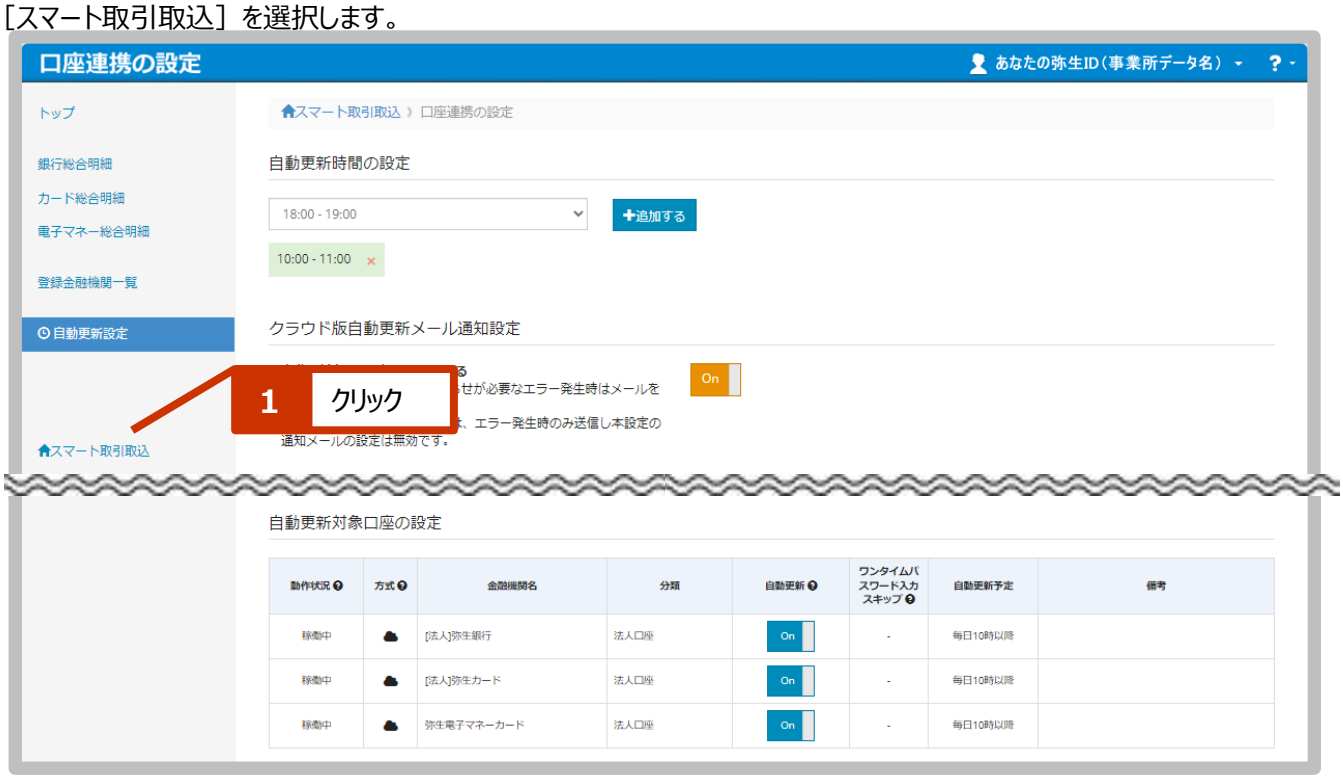
利用明細の取得方法（自動・手動）についてはこちら（クリックすると FAQ ページが表示されます）

自動更新を有効にしたい

口座連携した金融機関から明細を手動で取得する

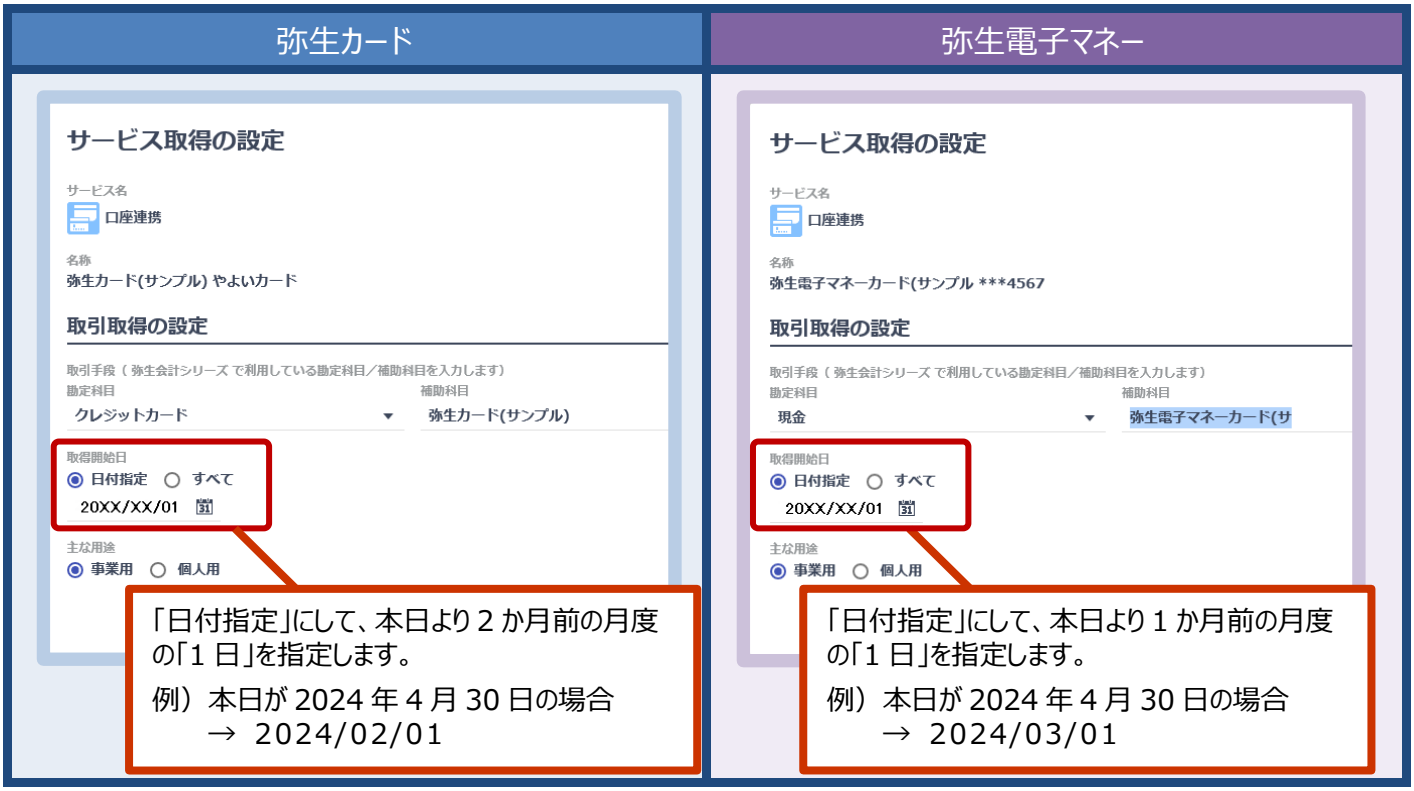
FAQ ページが表示されない場合は、こちらをクリックして、キーワードで検索してください。

14. ［スマート取引取込］を選択します。



15. 赤文字をクリックして、科目や取得開始日を設定します。

「弥生クレジットカード」と「弥生電子マネー」については、練習用データの都合上、学習する日によって以下の内容で「取得開始日」を設定してください。

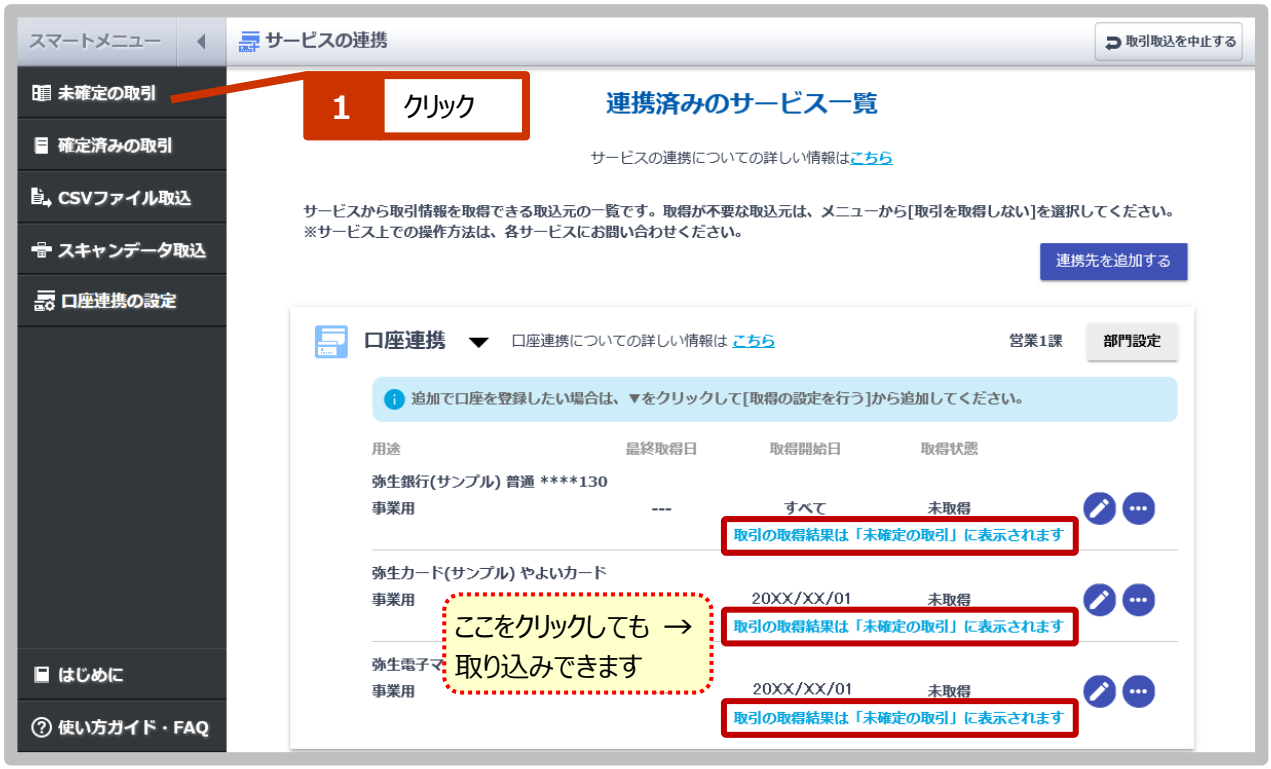


※　上記の「取得開始日」は、弥生のサンプル金融機関を使用する場合の設定です。実運用をしている金融機関を設定する際には、取り込みたい期間に応じて設定してください。

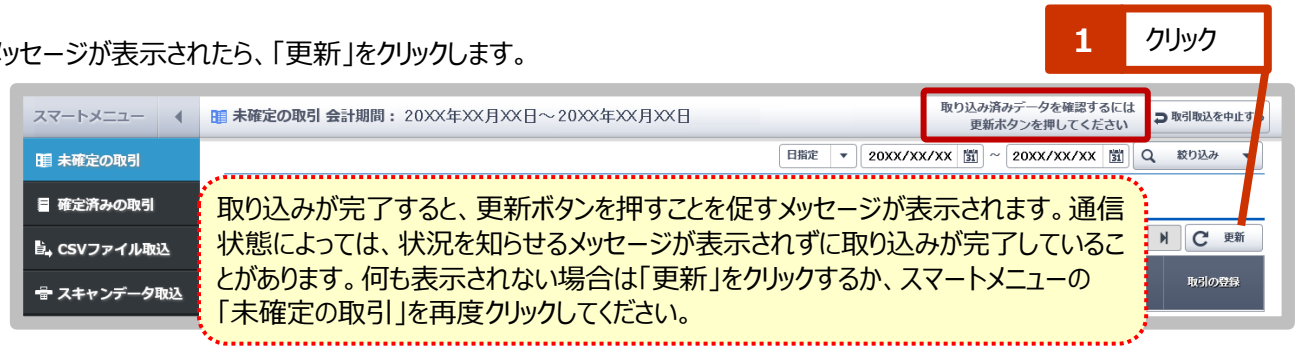
16.（デフォルトの部門を指定する場合のみ）部門を設定します。

設定ができたら、取り込んだ取引を表示します。

17.スマートメニューの［未確定の取引］をクリックします。



18.メッセージが表示されたら、「更新」をクリックします。



19.データが表示されたら取り込まれた内容を確認します。

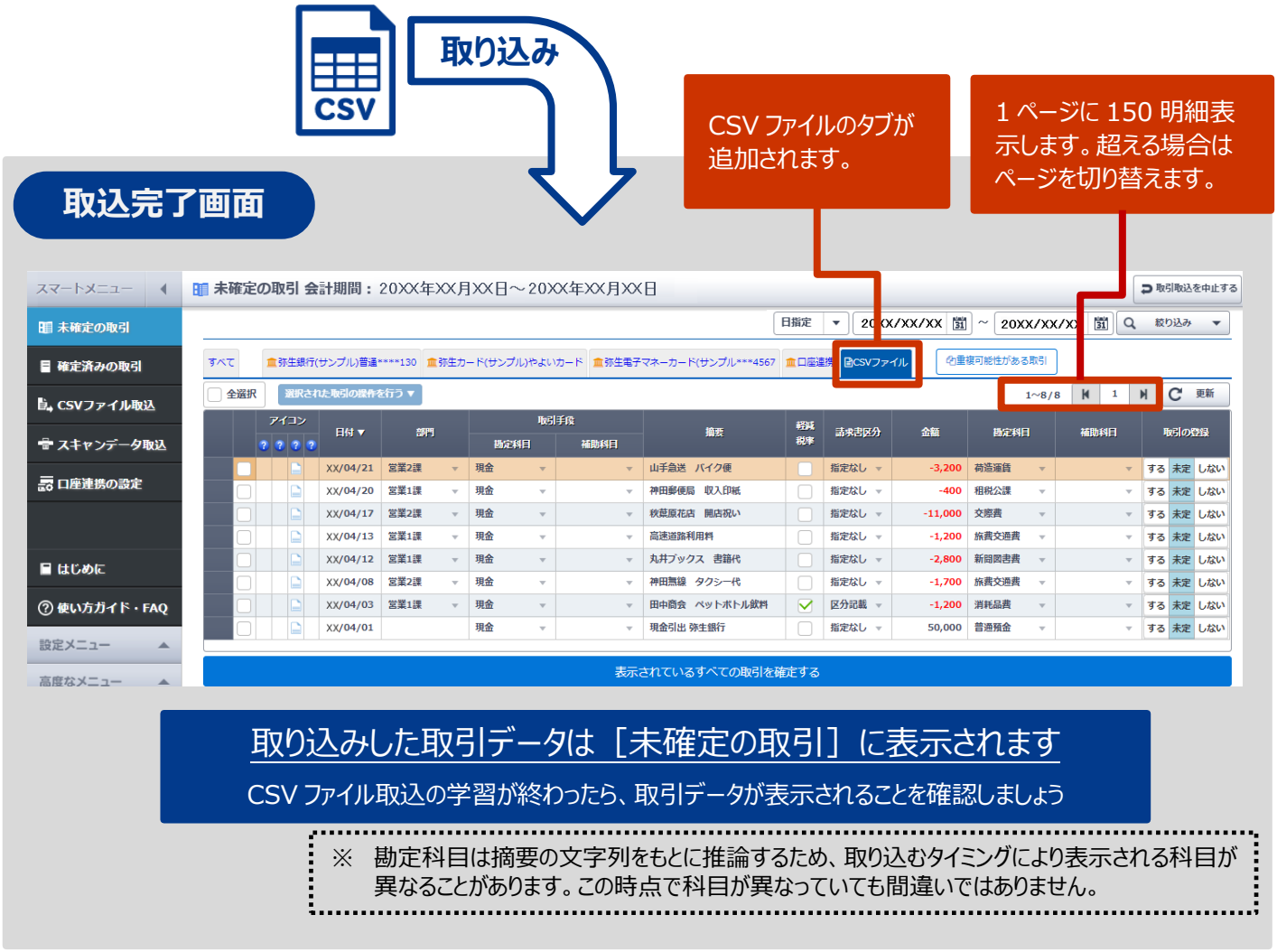
登録した金融機関ごとにタブが作成されているので切り替えて確認しましょう。

「弥生銀行」の取り込みした状態は P4 で確認できます。

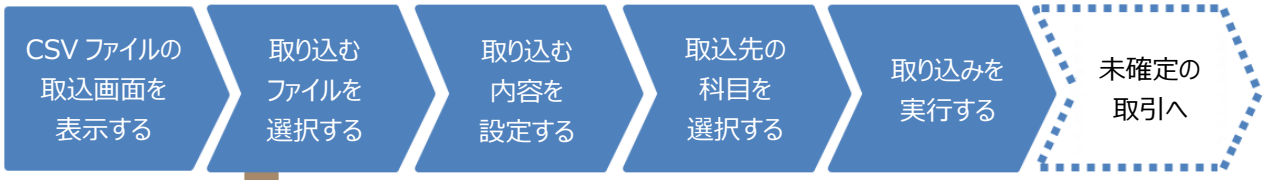
P4 での確認ができたらこのページに戻り、次ページの「CSV ファイル取込」に進みましょう。

CSV ファイル取込

CSV形式で作成されたファイルを取り込んで取引データを作成します。
金融機関のWebサイトからダウンロードしたファイルや、現金出納帳などの任意フォーマットのファイルを取り込む場合に使用します。



＜CSV ファイル取込の流れ＞



学習で使用するファイルは、事業所データの会計期間によって異なります。
ご自身が作成した事業所データを確認して、取り込むファイルを選択してください。

会計期間	学習で使用するファイル
1月～12月	現金出納帳_4ｶﾞｯ.csv
7月～翌6月	現金出納帳_10ｶﾞｯ.csv

準備ができたら、さっそく操作しましょう。

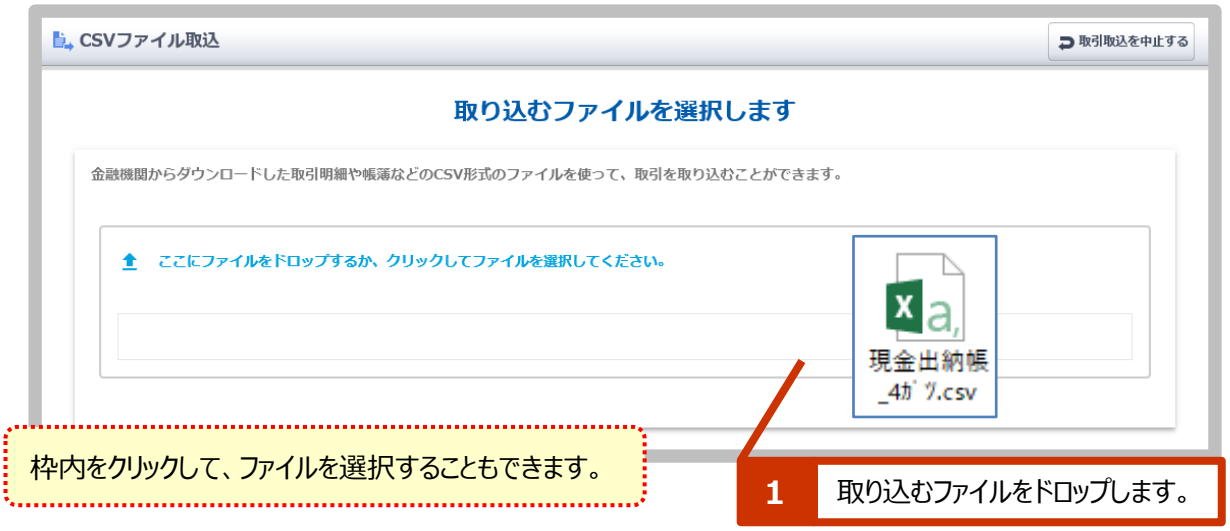
手順書では「現金出納帳_4 ｶﾞｯ.csv」を取り込んだ画面を使用しています。
「現金出納帳_10 ｶﾞｯ.csv」を取り込む場合は読み替えてご覧ください。

操作手順

1. スマート取引取込の「CSV ファイル取込」の画面を表示します。

※ 画面の表示方法については、P2 の「スマート取引取込の起動方法」をご覧ください。

2. 取り込むファイルを選択します。



取り込む内容を設定する画面が表示されます

参考

選択したファイルが過去に取り込んだフォーマットと同じ場合や全銀協フォーマットの場合は、この画面が表示されず、項目の設定が完了した状態で P18 手順 6 の画面が表示されます。

3. CSV ファイルの内容に合わせて、該当する日付項目を設定します。

続けて、「月」「日」を設定します。

設定した結果を確認します

日付の設定ができたら次へ進みます。

4. 金額の項目とその他の任意項目を設定します。

設定ができたら、次ページの画像と同じになっているかを確認しましょう。

明細を見ながら、項目の位置を選択しましょう。

選択する項目については以下も参考にしてください。

項目	設定	補足
日付（年月日）	必須	年月日が同じ列に表示されている場合は「日付(年月日)」を選択します。
金額（入金/出金）	必須	入金（プラス）と出金（マイナス）が同じ列に表示されている場合は「金額(入出金)」を選択します。
部門	任意	明細の部門と事業所データの部門名称を同じにしておく必要があります。違う明細が含まれている場合はエラーとなり、取り込みできません。
摘要	任意	科目を推論する際の基となります。取引内容を表す列がある場合は選択してください。
軽減税率	任意	軽減税率の対象か否かを表す列です。空欄以外はすべて「軽減税率対象」の取引として認識します。
請求書区分	任意	請求書区分が区分記載の取引かどうかを表す列です。空欄以外はすべて「区分記載」の取引として認識します。

FAQ

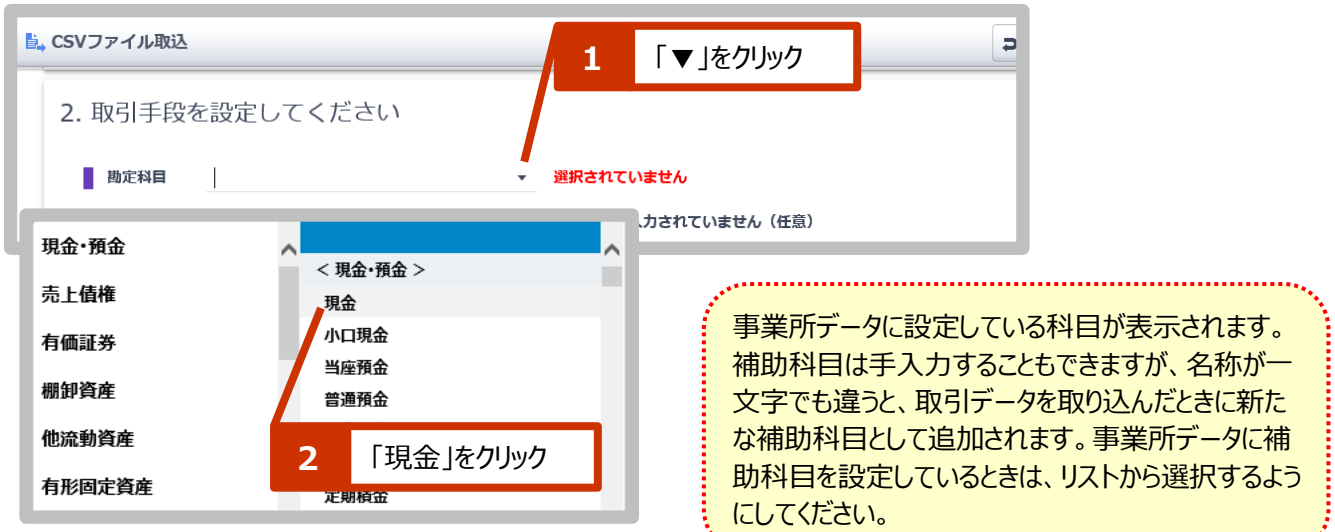
知識を深めるために合わせて学習しよう（クリックすると FAQ ページが表示されます）

CSV ファイル取込のファイル形式

FAQ ページが表示されない場合は、こちらをクリックして、キーワードで検索してください。

5. 取り込みを開始する行を指定します。

6. 取引手段（取り込み先）とする科目を指定します。
例えば、「現金出納帳」を取り込む場合は、現金に関する取引明細なので「現金」を選択します。



ここでは補助科目は指定しません。

7. 取り込みを実行します。

8. 「未確定の取引」が表示されるので、「CSV ファイル」タブをクリックして取り込まれた内容を確認しましょう。
取り込みした状態は P14 で確認できます。

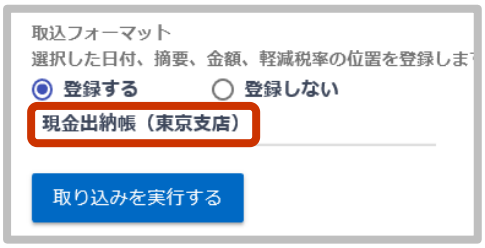
P14 での確認ができたらこのページに戻り、次ページの「スキャンデータ取込」に進みましょう。

参考

項目の数や並びが異なる形式のファイルを複数取込むことがある場合は、「取込フォーマット」として保存しておくことにより、次回取り込んだ時に自動で項目が割り当てされるようになります。

取込フォーマット

フォーマットを保存するには、「取込フォーマット」で「登録する」を選択して［取り込みを実行する］をクリックします。（初期値では「登録する」が選択されています。）
最大 10 パターンまで登録することができ、識別しやすいように取込フォーマットの名称を設定しておくこともできます。



フォーマットは任意に選択することもできるので、過去に取り込んでいないファイルでも、保存フォーマットと形式が同じであれば利用できます。［展開する］をクリックすると利用できます。

FAQ

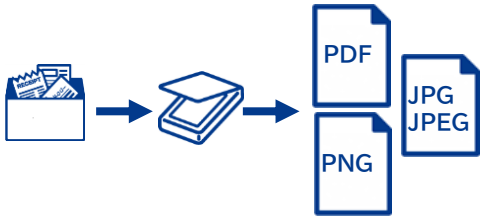
知識を深めるために合わせて学習しよう（クリックすると FAQ ページが表示されます）

CSV 形式のクレジットカードの利用明細を取り込む

FAQ ページが表示されない場合は、こちらをクリックして、キーワードで検索してください。

スキャンデータ取込

レシートや領収書の画像から文字情報を読み取って取引データを作成します。



取り込み

スキャンデータのタブが追加されます。

1 ページに 150 明細表示します。超える場合はページを切り替えます。

取込完了画面

取り込みした取引データは［未確定の取引］に表示されます

スキャンデータ取込の学習が終わったら、取引データが表示されることを確認しましょう

※　勘定科目は摘要の文字列をもとに推論するため、取り込むタイミングにより表示される科目が異なることがあります。この時点で科目が異なっていても間違いではありません。

＜スキャンデータ取込の流れ＞

スキャンデータの取込設定を行う → スキャンしたファイルを取り込む → 読み取った文字情報を確認する → 未確定の取引へ

学習で使用するファイルは、事業所データの会計期間によって異なります。ご自身が作成した事業所データを確認して、ファイルを選択してください。

会計期間	学習で使用するファイル
1月～12月	＜ﾚｼｰﾄ_202403＞フォルダー内のファイル（ファイル数：2）
7月～翌6月	＜ﾚｼｰﾄ_202409＞フォルダー内のファイル（ファイル数：2）

準備ができたら、さっそく操作をはじめましょう。

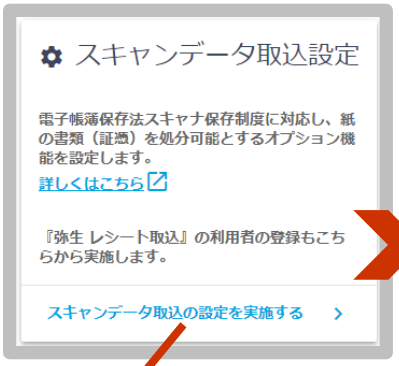
手順書では「ﾚｼｰﾄ_202403」フォルダー内のファイルを取り込んだ画面を使用しています。
「ﾚｼｰﾄ_202409」フォルダー内のファイルを取り込む場合は読み替えてご覧ください。

操作手順

1. スマート取引取込の「スキャンデータ取込」の画面を表示します。

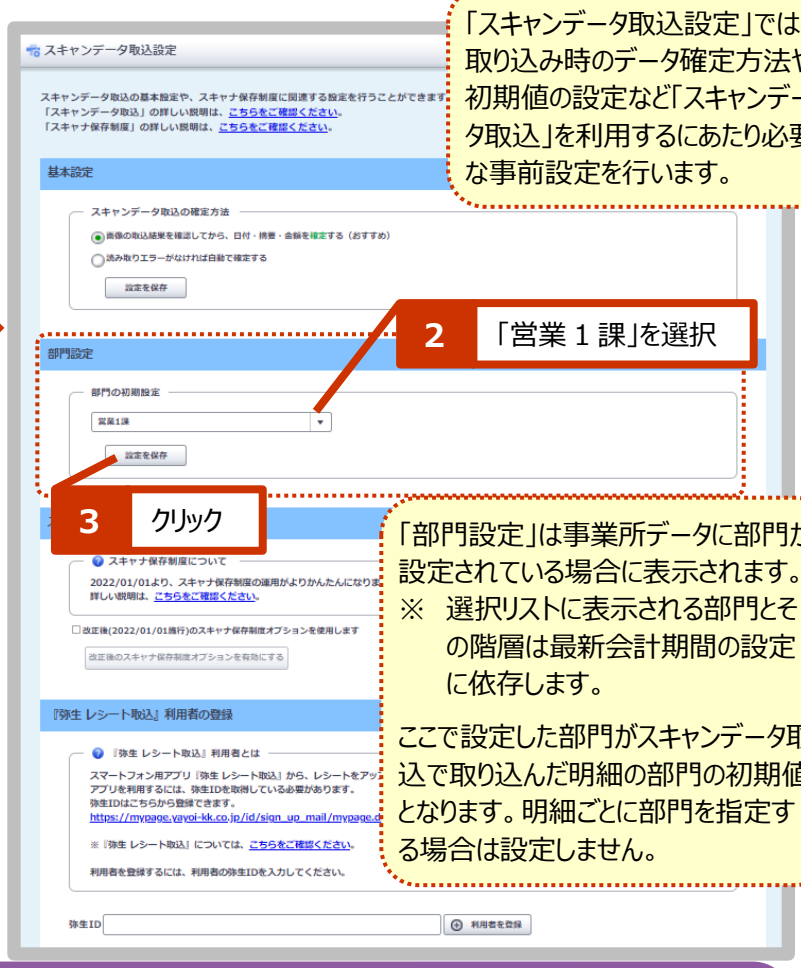
※ 画面の表示方法については、P2 の「スマート取引取込の起動方法」をご覧ください。

2. 取込設定を表示します。



1 クリック

ここでは部門の初期値を「営業 1 課」に設定します。



「スキャンデータ取込設定」では、取り込み時のデータ確定方法や初期値の設定など「スキャンデータ取込」を利用するにあたり必要な事前設定を行います。

2 「営業 1 課」を選択

3 クリック

「部門設定」は事業所データに部門が設定されている場合に表示されます。
※ 選択リストに表示される部門とその階層は最新会計期間の設定に依存します。

ここで設定した部門がスキャンデータ取込で取り込んだ明細の部門の初期値となります。明細ごとに部門を指定する場合は設定しません。

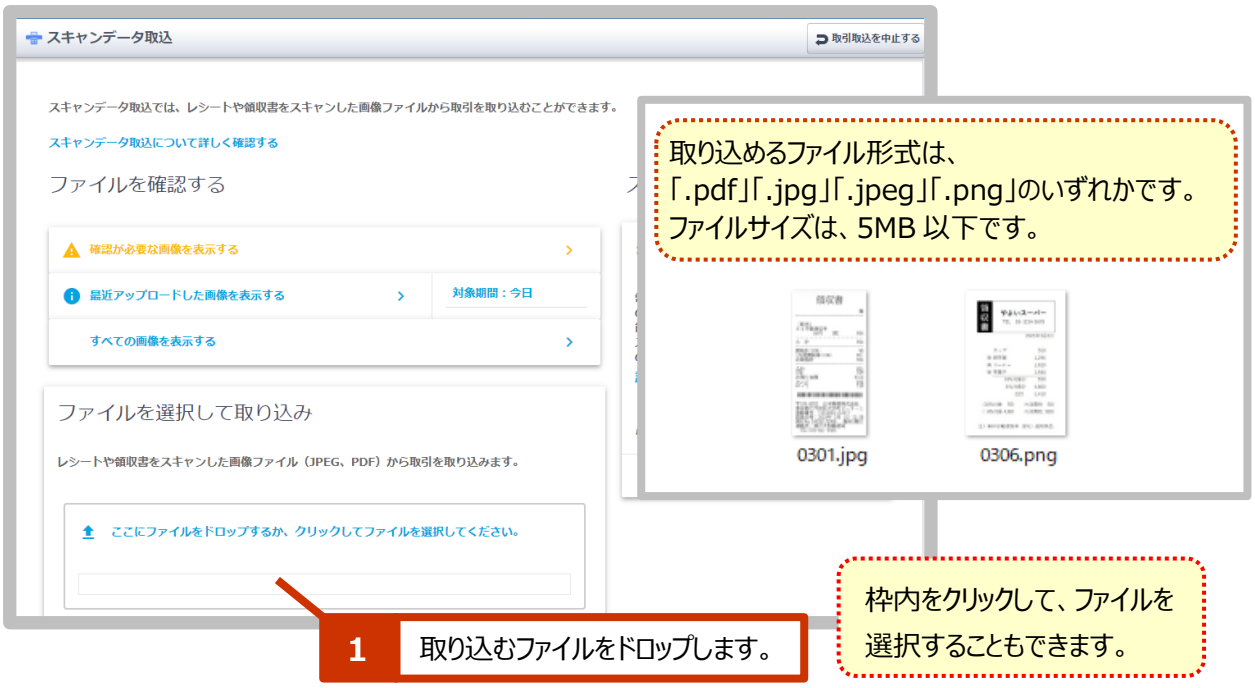
FAQ 「スキャンデータ取込設定」の詳細についてはこちら（クリックすると FAQ ページが表示されます）

スキャンデータ取込設定

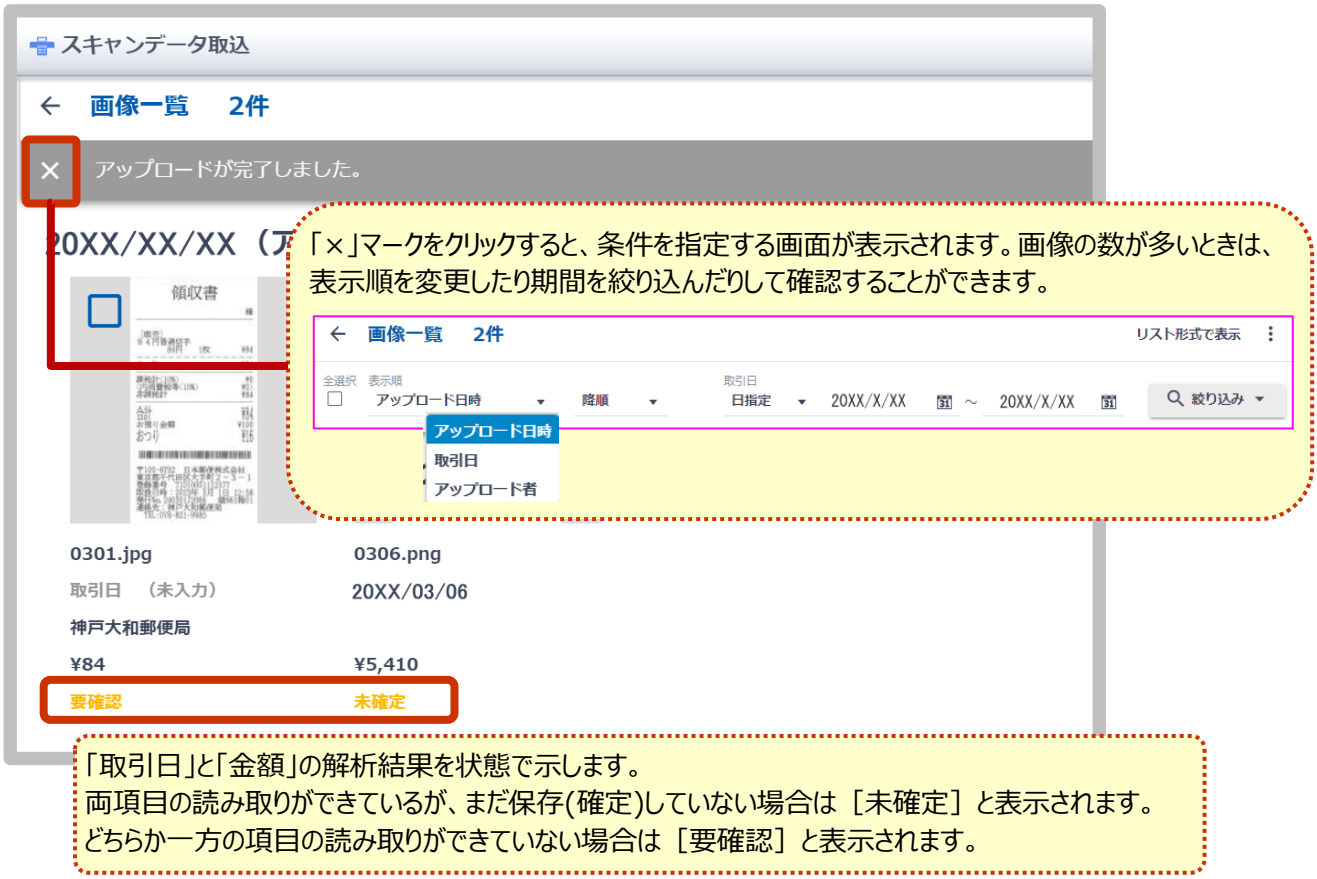
FAQ ページが表示されない場合は、こちらをクリックして、キーワードで検索してください。

3. スマートメニューの「スキャンデータ取込」をクリックして、元の画面に戻ります。

4. 取り込むファイルを選択します。



アップロードが完了すると、解析結果が表示されます



FAQ

取り込めるデータやその他の取り込み方法についてはこちら（クリックすると FAQ ページが表示されます）

スキャンデータ取込でレシート・領収書を取り込む場合の注意点

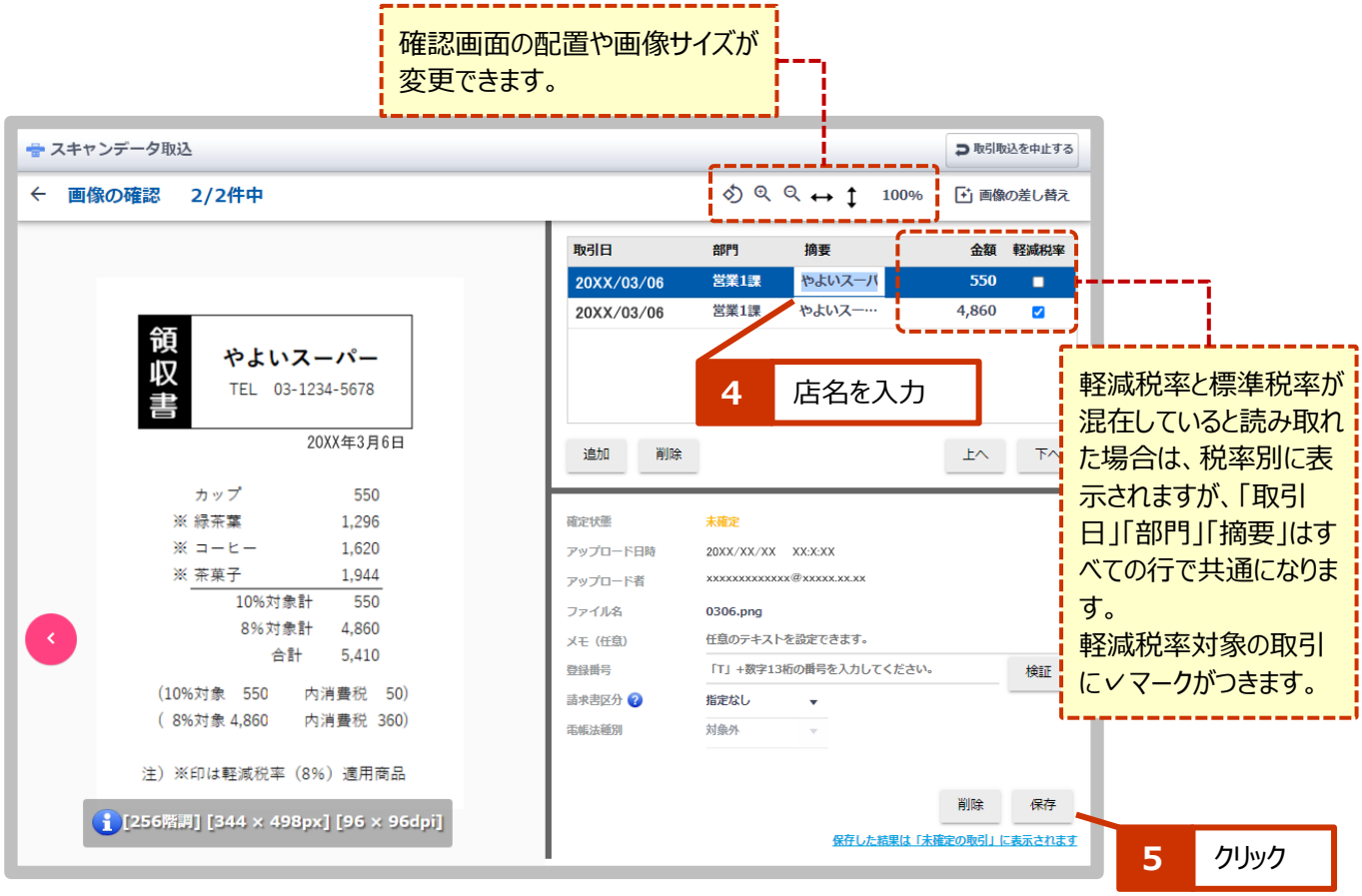
弥生 レシート取込アプリの利用の流れ

FAQ ページが表示されない場合は、こちらをクリックして、キーワードで検索してください。

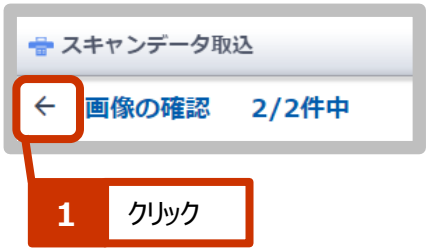
5. 画像をクリックします。

6. 読み取った文字情報を確認して、異なる場合は修正します。

レシートは学習用です。操作体験できるように修正が必要なレシートを使用しています。



7. 確認と保存ができたら、画像の一覧に戻ります。



状態を確認して、「確定」になっていれば完了です。

8. スマートメニューの「未確定の取引」をクリックします。
「スキャンデータ」タブをクリックして取り込まれた内容を確認しましょう。取り込みした状態は P20 で確認できます。

FAQ

知識を深めるために合わせて学習しよう（クリックすると FAQ ページが表示されます）

スキャンデータから取り込んだ取引を修正したい

FAQ ページが表示されない場合は、こちらをクリックして、キーワードで検索してください。

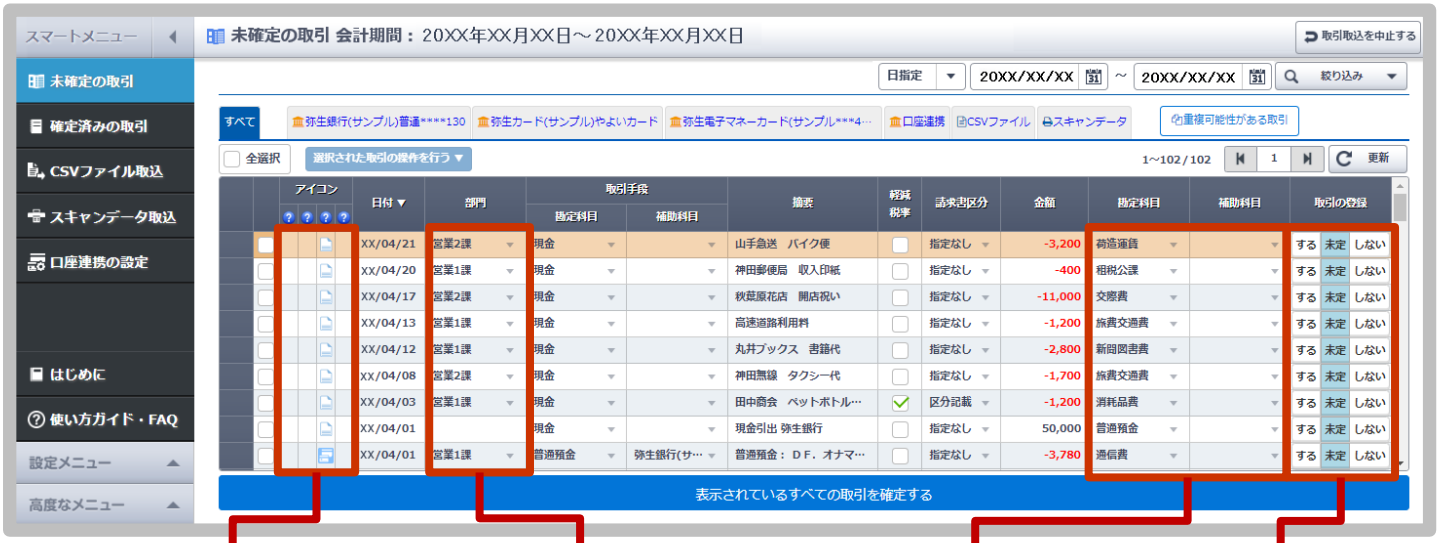
P20 での確認ができたらこのページに戻り、次ページの「弥生ソフトへの仕訳登録」に進みましょう。

会計ソフトへの仕訳登録

口座連携、CSVファイル、スキャンデータから取り込んだ取引データを会計ソフトへ仕訳として登録します。

＜未確定の取引＞

仕訳として登録する前に、取り込んだ取引データを確認、修正する画面です。登録するかしないかを選択して確定することで、必要な仕訳のみが会計ソフトに登録されます。



画像の有無や取込元などをアイコンで表示します。

事業所データに部門が登録されている場合に「部門」列が表示されます。

摘要文字からの推論や過去の修正履歴から推論した科目が表示されます。

仕訳登録する/しないを選択します。

FAQ

画面に表示されているその他の項目についての詳細はこちら（クリックすると FAQ ページが表示されます）

［未確定の取引］/［確定済みの取引］画面項目

FAQ ページが表示されない場合は、こちらをクリックして、キーワードで検索してください。

＜仕訳登録までの流れ＞

未確定の取引 → 不要な取引データを取り除く → 取引データを修正する → 重複している取引データを確認する → 登録する取引データを確定する → 会計ソフトへ仕訳登録 → 最後に

すべての学習を終えた後、修正履歴の学習やルール設定が反映されることを確認するために CSV ファイルを取り込みます。使用するファイルは事業所データの会計期間によって異なります。ご自身が作成した事業所データを確認して、取り込むファイルを選択してください。

会計期間	学習で使用するファイル
1月～12月	弥生銀行_10ｶﾞﾂ.csv VISAカード_10ｶﾞﾂ.csv
7月～翌6月	弥生銀行_4ｶﾞﾂ.csv VISAカード_4ｶﾞﾂ.csv

操作の前に

■ 以降の操作手順では、4 月に学習を開始した場合の画面を採用しています。学習を開始する日によって、表示される会計期間や取引データの順序、日付の月が異なることがありますので読み替えてご覧ください。

■ 日付の項目名をクリックすると、取引データを昇順降順で並べ替えることができます。これ以降のページでは日付を「昇順」にして記載しますので、日付の▼マークをクリックして右図と同じ(▲)にして学習を進めてください。

操作手順

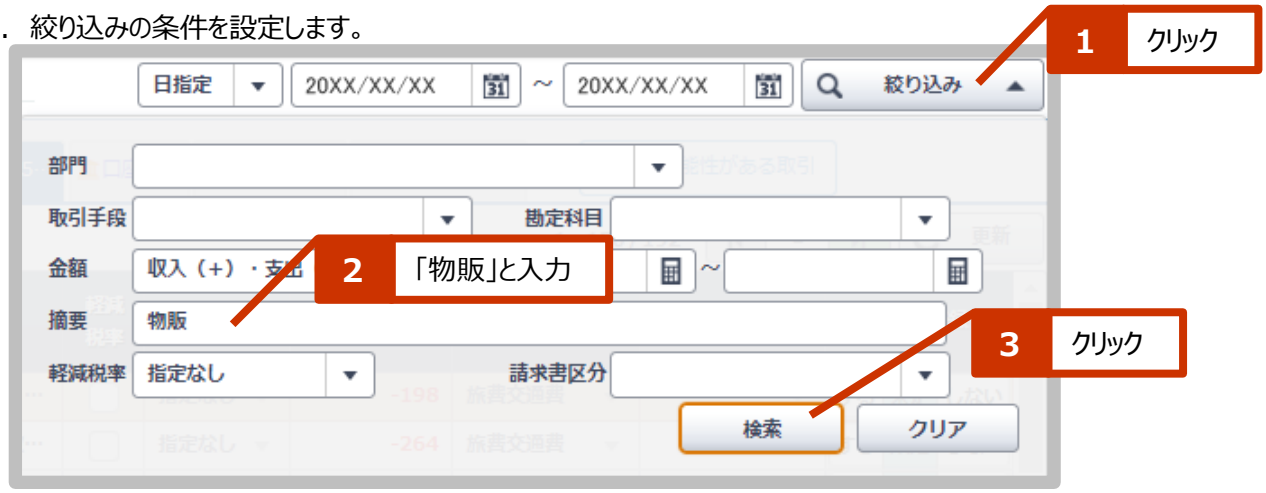
不要な取引データを取り除く

他のソフトとの連動や手入力などにより既に会計ソフトに仕訳として登録されている取引がある場合は、あらかじめ取り除いておくと後の作業が楽になります。対象のデータは期間や条件で絞込むことができます。

ここでは、電子マネーによる物販購入の取引がすでに会計ソフトへ入力されているものとして、摘要に「物販」と表示されている取引データを絞り込んで取り除いてみましょう。

1. 「弥生電子マネーカード（サンプル***45･･･」タブを選択して取引データを表示します。

2. 絞り込みの条件を設定します。



3. 絞り込まれた取引データのすべてにチェックを付けて、「取引の登録を「しない」に変更する」を選択します。

4. 「取引の登録」が「しない」になっていることを確認したら、確定します。

5. 絞り込みの条件を解除します。

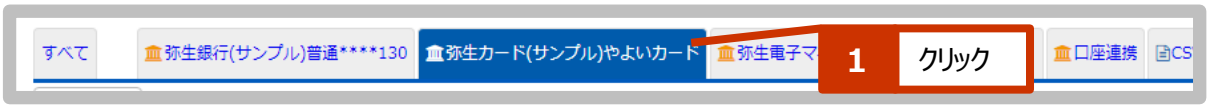
絞り込み解除後

取引データを修正する

推論した科目や摘要文字を確認して必要に応じて修正します。修正した履歴は学習され、次回同じ内容の取引データを取込んだときは自動的に科目や摘要が表示されます。

ここでは、「弥生カード」の取引データを修正してみましょう。

6. 「弥生カード（サンプル）やよいカード」タブを選択して取引データを表示します。



7. 16 日の取引データを表示して、摘要や科目を修正します。

参考

推論の精度を高める機能　【仕訳ルール設定】
修正した科目や摘要文字は学習しますが、更に推論の精度を高めるために、自分用の仕訳ルールを設定することができます。設定方法は次ページを参照してください。

FAQ

仕訳の自動化の仕組みについてはこちら（クリックすると FAQ ページが表示されます）

スマート取引取込の自動仕訳について

FAQ ページが表示されない場合は、こちらをクリックして、キーワードで検索してください。

～ 推論の精度を高める機能 ～

仕訳ルール設定

指定した条件に当てはまる取引の科目や摘要を自動的に置き換える機能です。
設定しておくと、取引を取り込んだ時点でルールが適用され、「未確定の取引」画面の該当の取引データにアイコン（右上図）が表示されます。また、取引の登録が自動的に「する」になります。

「仕訳ルール」が適用されたときのアイコン

仕訳ルールの登録方法　以下 2 つの方法があります
Ⓐ 取引の一覧から対象の取引を選択して登録する
Ⓑ［登録済み仕訳ルール］画面で新規登録する

仕訳ルールを登録しよう

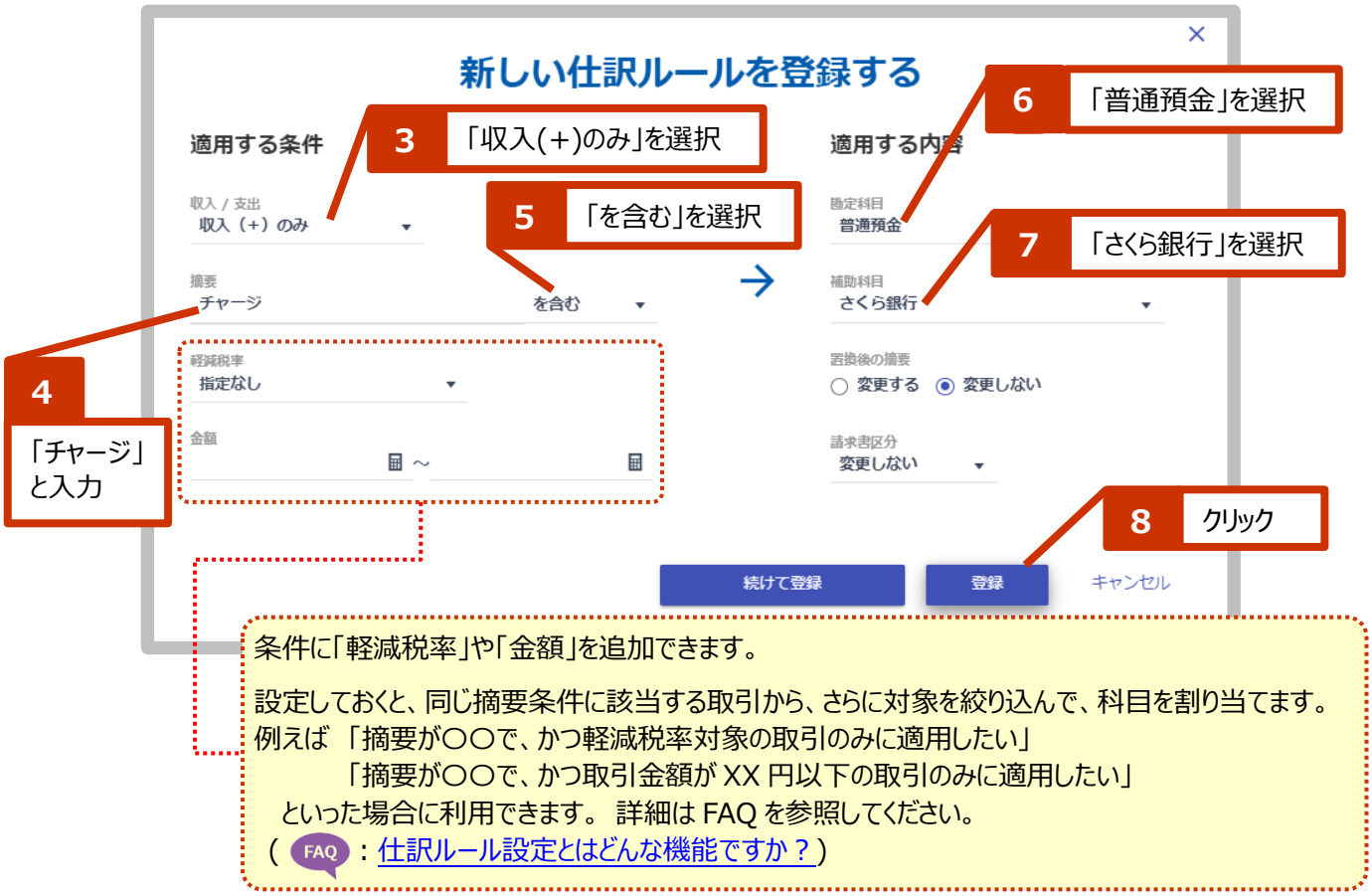
まず、Ⓐの方法により前ページで修正した取引をルールに登録してみましょう。

＜操作方法＞

続いて、Ⓑの方法で次のルールを新規登録してみましょう。

仕訳ルール	摘要文字に「チャージ」を含む取引データは、 勘定科目を「普通預金」、補助科目を「さくら銀行」とする

＜操作手順＞



条件に「軽減税率」や「金額」を追加できます。

設定しておくと、同じ摘要条件に該当する取引から、さらに対象を絞り込んで、科目を割り当てます。
例えば 「摘要が〇〇で、かつ軽減税率対象の取引のみに適用したい」
「摘要が〇〇で、かつ取引金額が XX 円以下の取引のみに適用したい」
といった場合に利用できます。 詳細は FAQ を参照してください。
（ FAQ ：仕訳ルール設定とはどんな機能ですか？）

＜登録済み仕訳ルール＞画面

Ⓐ Ⓑの方法で登録したルールが表示されます。

Ⓐの方法で登録した仕訳ルールは、摘要文字の一致種別が「と一致する」になるため、完全一致した場合のみ適用されます。

ルールの設定は変更できます。クリックすると編集画面が表示されます。（関連 FAQ ：仕訳ルール設定）

FAQ

CSV ファイルを利用して一括で仕訳ルールを登録するには（クリックすると FAQ ページが表示されます）

仕訳ルールのインポート/エクスポート

FAQ ページが表示されない場合は、こちらをクリックして、キーワードで検索してください。

一部の外部サービス（Misoca・MakeLeaps・ユビレジ・スマレジ）から取り込んだ取引は、
科目を外部サービス側で指定して送信しているため、仕訳ルールの適用や推論の対象外となります。

以上が、科目や摘要文字の修正と、仕訳ルールの設定です。

なお、Ⓑで登録した仕訳ルールは「未確定の取引」画面で適用されていることを確認できます。
「弥生電子マネーカード（サンプル）」から取り込んだ取引に、摘要に「チャージ」を含む取引がありますので、「未確定の取引」を表示して、「すべて」または「弥生電子マネーカード（サンプル）」タブをクリックして確認してみましょう。

その他の取引データについても修正してみましょう。

8. 弥生カードの 21 日の取引を次のように修正します。

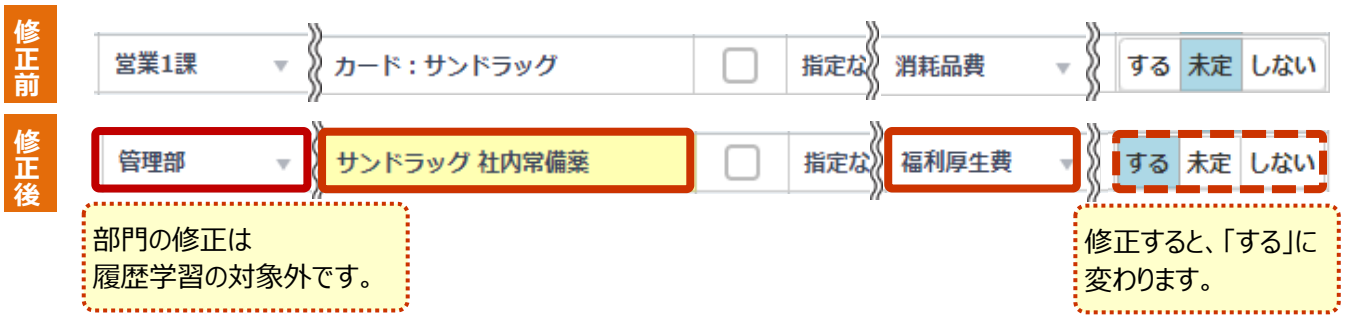
会計ソフトへ取引を登録した際の仕訳の税率

弥生 20 シリーズ以降の会計ソフトでは、科目設定で勘定科目・補助科目に税率を設定することができます。初期値は「標準自動」が設定されているため、取引日付に応じた標準税率（10%）が自動適用されます。

（関連 FAQ：科目の税率を設定（変更）する方法）

ただし、スマート取引取込から［軽減税率］にチェックをつけて会計ソフトへ取引を取り込むと、科目設定の税率に関係なく自動的に「8%（軽）」で仕訳が登録されます。

9. 弥生カードの 11 日の取引を次のように修正します。



部門の指定

事業所データの最新会計期間に部門が登録されていると「部門」列が表示されます。
部門管理対象の取引の場合は部門を選択します。

（関連 FAQ：スマート取引取込での部門設定）

部門は、取引手段・勘定科目のどちらかに損益科目が指定されている取引で選択できます。

取引手段と勘定科目が両方とも貸借科目の取引例

部門	取引手段		摘要	軽減税率	請求書区分	金額	勘定科目
	勘定科目	補助科目					
営業1課	普通預金	弥生銀行(サンプル)	普通預金：支払機		指定なし	-50,000	現金
営業1課	普通預金	弥生銀行(サンプル)	普通預金：預金機		指定なし	100,000	現金

部門は選択できません

～ 1 つの仕訳を複数の仕訳に置き換える機能 ～

「取引追加ルール」が適用されたときのアイコン

取引追加ルール設定

摘要や科目などの条件をもとに、取り込んだ取引に支払手数料や利息などを自動で追加して複数行の仕訳にすることができる機能です。追加する方法は「加算」と「分割」から選択できます。設定しておくと、取引を取り込んだ時点でルールが適用され、「未確定の取引」画面の該当の取引データにアイコン（右上図）が表示されます。

「取引追加ルール」が活用できる取引例

- 売掛金入金時に手数料を差し引かれて振り込まれている
- 借入金の元金と支払利息を合算して返済している
- 税理士報酬から源泉所得税を差し引いて支払っている
- 健康保険料の事業主負担分と従業員負担分が合算されて引落とされている

取引例を用いて「取引追加ルール」を活用する効果と結果について説明します。

取引例

売掛代金（100,000 円）から手数料（880 円）が差し引かれ、残金（99,120 円）が得意先（ヤヨイデザイン）より普通預金口座に振り込まれた。

仕訳

(借方)			(貸方)	
普通預金	99,120	/	売掛金	100,000
支払手数料	880	/		

スマート取引取込で普通預金を口座連携した場合

普通預金への入金額は 99,120 円であるため、「未確定の取引」の取引手段と科目には

(取引手段)		(科目)	
普通預金	99,120	売掛金	99,120

と表示されます。

このまま仕訳登録した場合、売掛金 100,000 円の消込をするには仕訳が不足するので（仕訳登録してから手修正が必要）

取引追加ルールで

ヤヨイデザインから普通預金口座に入金された際は → 借方に支払手数料を追加して 880 円を加算する

と設定することにより

売掛金 100,000 円の消込ができる取引データを作成して、「未確定の取引」に表示することができます。

(取引手段)		(科目)	
普通預金	99,120	売掛金	99,120
支払手数料	880	売掛金	880

取引追加ルールを登録してみましょう

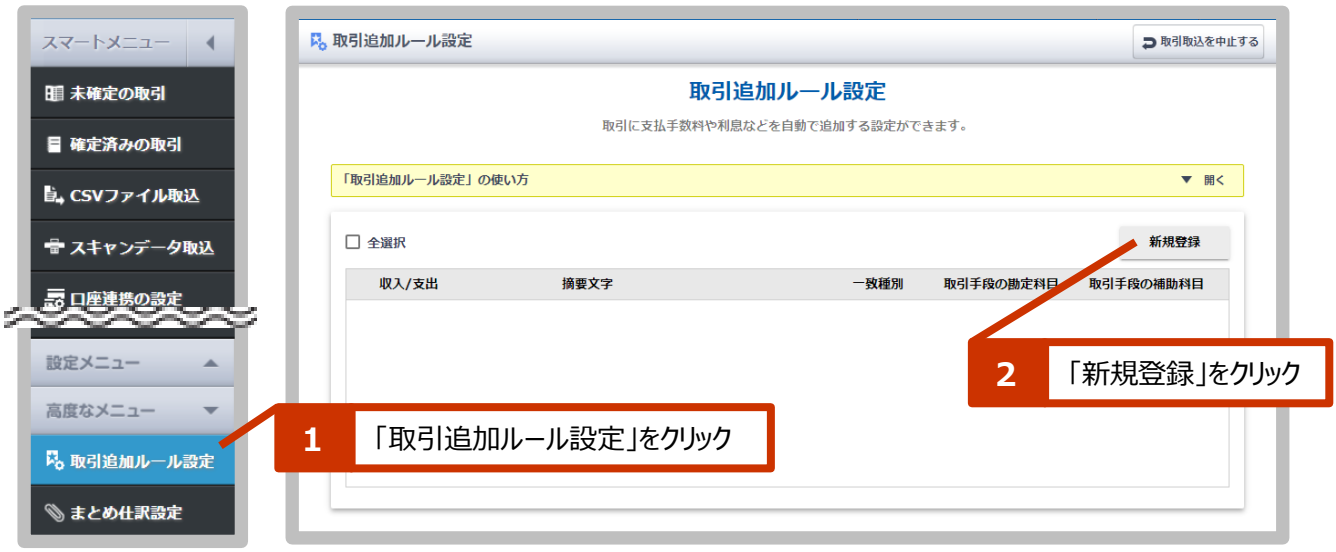
適用する条件

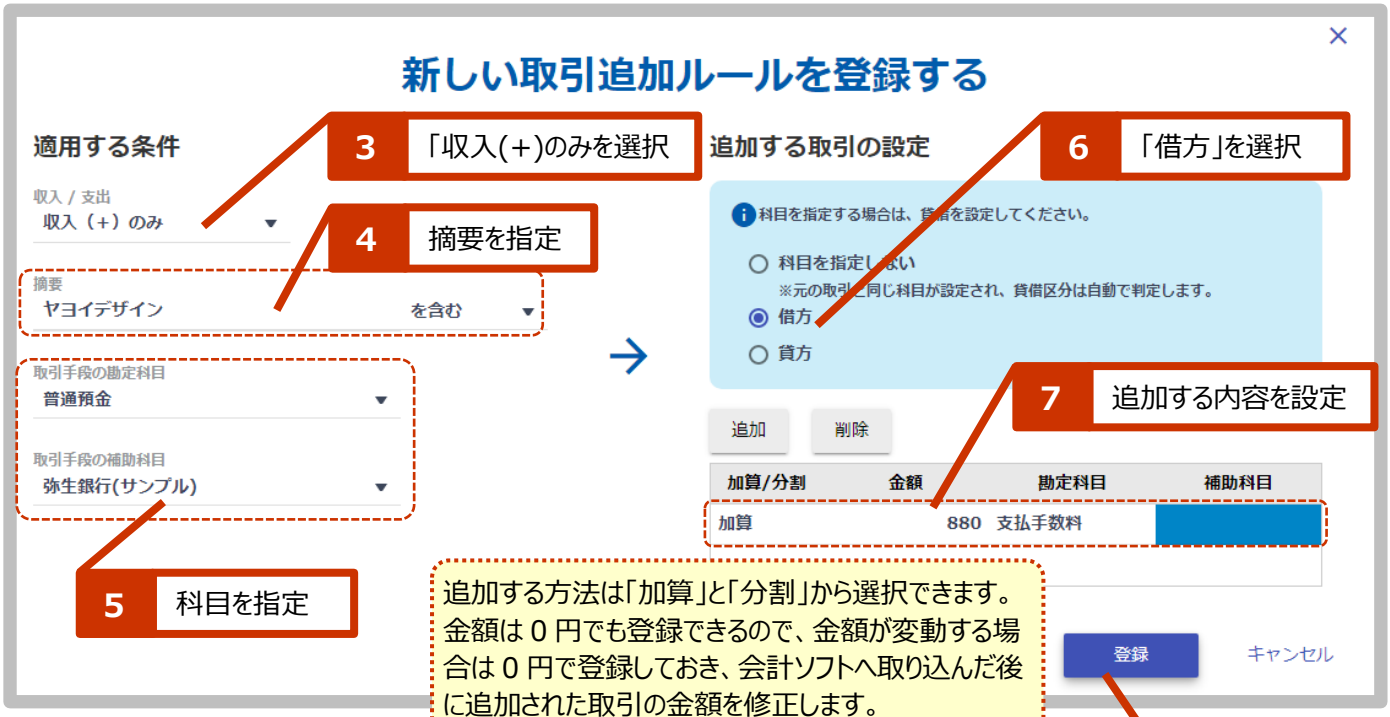
ヤヨイデザインから
普通預金に
入金された際は

追加する取引

借方に
支払手数料を追加して
880 円を加算する

＜操作手順＞





追加する方法は「加算」と「分割」から選択できます。金額は 0 円でも登録できるので、金額が変動する場合は 0 円で登録しておき、会計ソフトへ取り込んだ後に追加された取引の金額を修正します。

「取引追加ルール」は、**次回の取り込み時**から適用されます。
既に「未確定の取引」に表示されている取り込み済みの取引には適用されません。

FAQ

取引追加ルールの詳細についてはこちら（クリックすると FAQ ページが表示されます）

取引追加ルール設定

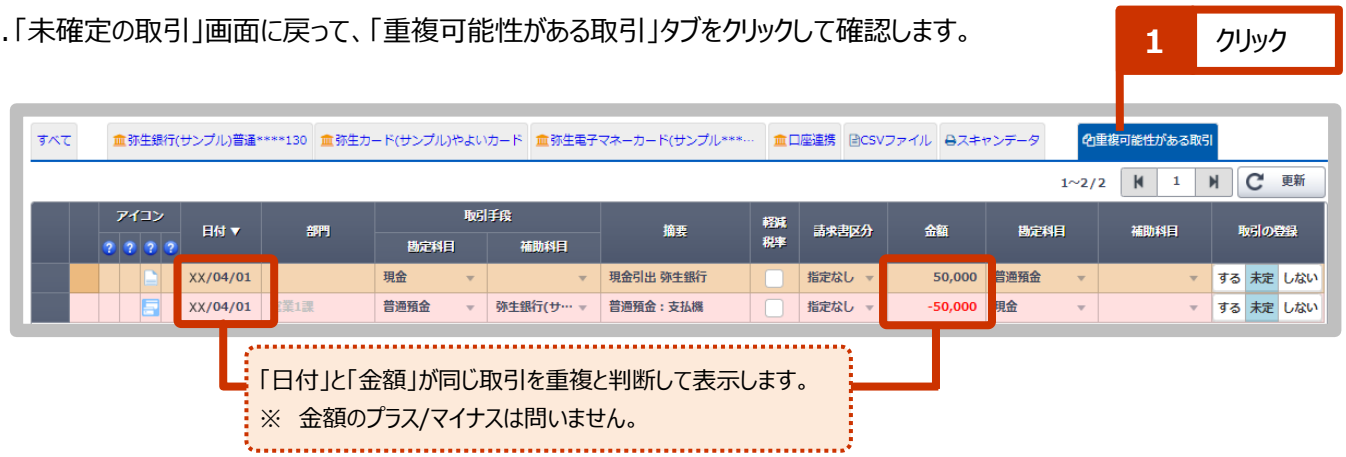
FAQ ページが表示されない場合は、こちらをクリックして、キーワードで検索してください。

重複している取引データを確認する

日付と金額が同じ取引データが複数ある場合は、「重複可能性がある取引」タブに表示されます。
内容を確認して、片方のデータを取り除きます。

ここでは、4 月 1 日の弥生銀行からの現金を引き出した取引データが、口座連携（弥生銀行）と CSV ファイル（現金出納帳）で重複していることを確認し、一方の取引を取り除いてみましょう。

10.「未確定の取引」画面に戻って、「重複可能性がある取引」タブをクリックして確認します。



「日付」と「金額」が同じ取引を重複と判断して表示します。
※　金額のプラス/マイナスは問いません。

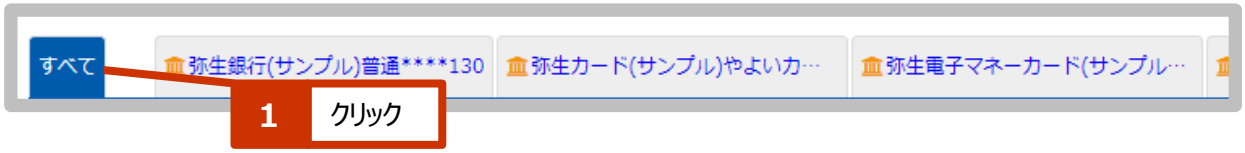
11.取り除く取引データの「取引の登録」を「しない」に設定して確定します。

確定すると、取引の登録を「しない」にした取引データが除外されるため、
「重複可能性がある取引」は表示されなくなります。
「未定」にした取引データは「未確定の取引」に残ります。

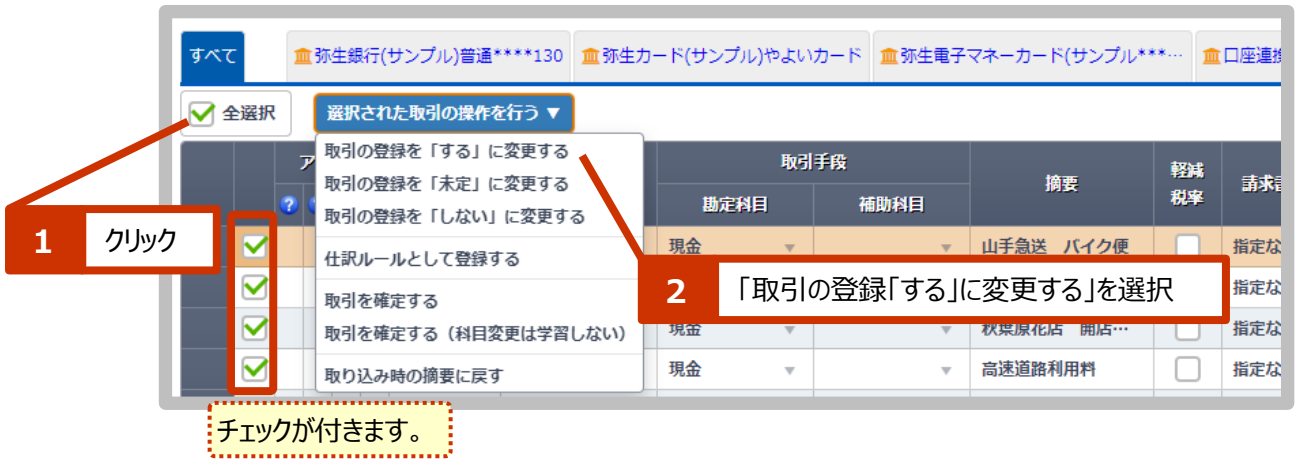
登録する 取引データを 確定する

残った取引データを確認して、会計ソフトへ仕訳としてまとめて登録します。

12.「すべて」のタブをクリックします。



13.表示されたすべての取引データを選択して、「取引の登録を「する」に変更する」を選択します。



14.「取引の登録」が「する」になっていることを確認して、取引を確定します。

取引を確定する操作は、「表示されているすべての取引を確定する」をクリックしても行えます。
「表示されているすべての取引を確定する」を使用して取引を確定する場合は、取引のチェックの有無は関係ありません。「取引の登録」の状態にあわせて、表示されているすべての取引を確定します。

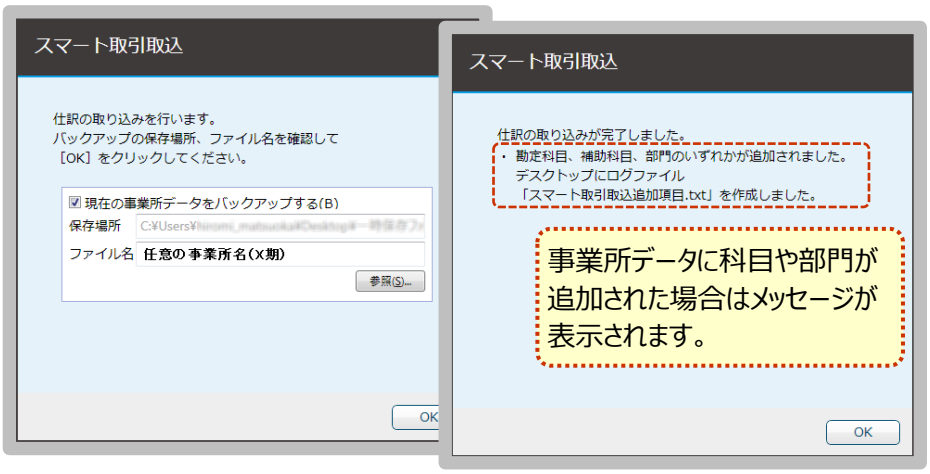
FAQ

知識を深めるために合わせて学習しよう

［未確定の取引］が複数ページにわたる場合の登録方法

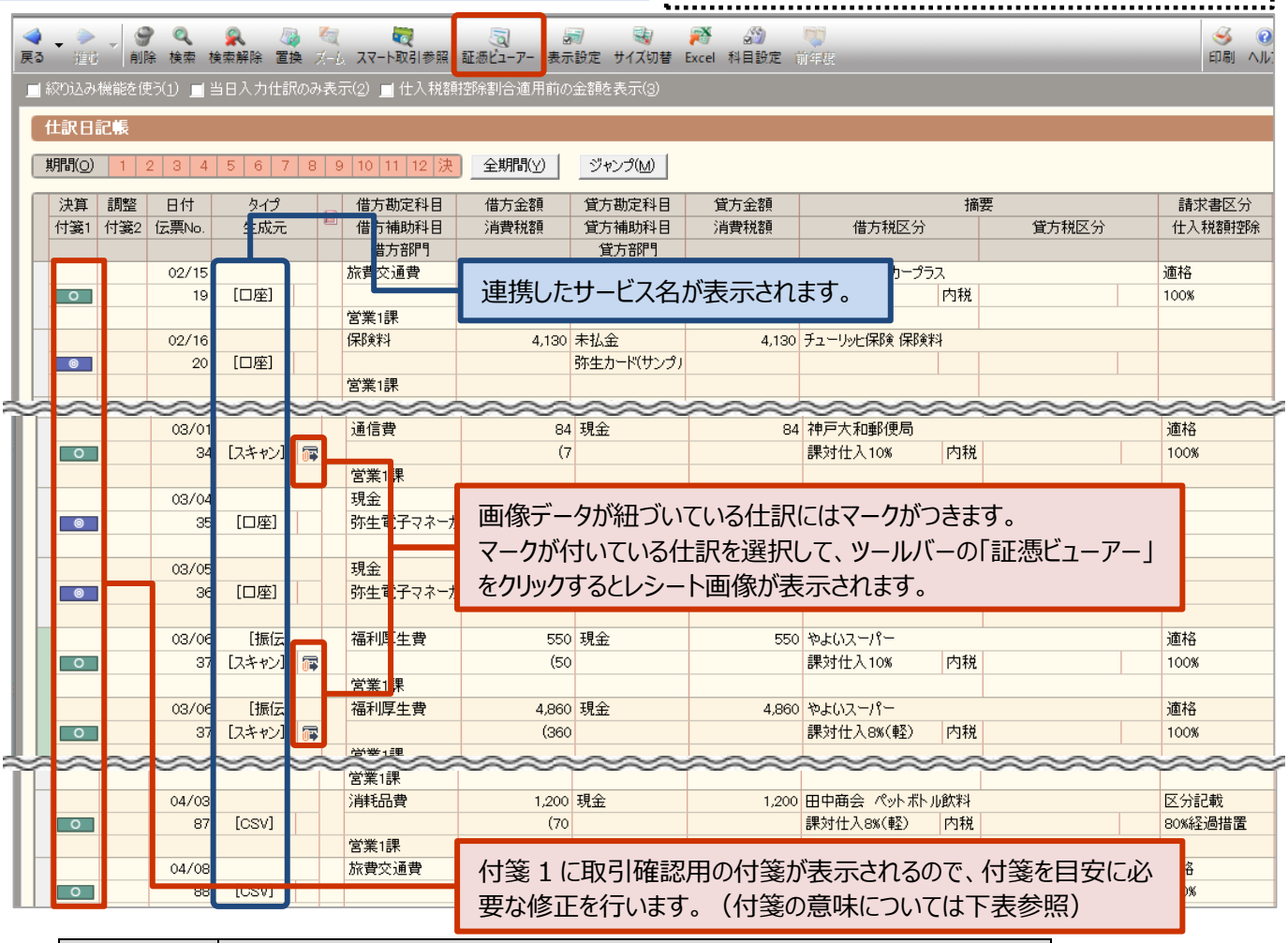
FAQ ページが表示されない場合は、こちらをクリックして、キーワードで検索してください。

15. 仕訳を取り込む前のデータをバックアップするかどうかや、バックアップする場合の保存場所、ファイル名を指定して、「OK」で進みます。



仕訳日記帳が表示されます

【お断り】 学習を開始する日によって日付や伝票番号が異なることがあります。読み替えてください。



種類	説明
	スマート取引取込の仕訳ルールが適用された仕訳 スマート取引取込で勘定科目を修正してから取り込んだ仕訳 連携サービス側で選択した勘定科目が設定された仕訳
	スマート取引取込で科目を推論した仕訳
	スマート取引取込から取り込んだ他の仕訳と重複の可能性がある仕訳

FAQ

取引確認用の付箋についてはこちら（クリックすると FAQ ページが表示されます）

スマート取引取込の仕訳の付箋

付箋の設定

FAQ ページが表示されない場合は、こちらをクリックして、キーワードで検索してください。

～ 会計ソフトでの修正履歴学習と仕訳ルールの登録について ～

スマート取引取込から会計ソフトに取り込んだ仕訳を、会計ソフトの画面で変更した場合も修正履歴を学習※します。更に推論の精度を高めたい場合は、会計ソフトの画面からでも「仕訳ルール」を登録することができます。

※ 修正履歴を学習する項目は、スマート取引取込の画面からの修正と同じです。

仕訳を修正して、仕訳ルールを登録してみましょう。

【お断り】 学習を開始する日によって日付や伝票番号が異なることがあります。読み替えてください。

＜操作手順＞

1. 次の仕訳の科目と摘要を修正します。

修正前

日付	タイプ	借方勘定科目	借方金額	貸方勘定科目	貸方金額	摘要
伝票No.	生成元	借方補助科目	消費税額	貸方補助科目	消費税額	借方税区分
		借方部門		貸方部門		
04/01		預り金	175,200	普通預金	175,200	普通預金：ゼイキントウ
64	[口座]			弥生銀行(サンプル		
04/01		普通預金	2,500,000	売掛金	2,500,000	普通預金：振込1 カ)ヤヨイデザイン
65	[口座]	弥生銀行(サンプル				

修正後

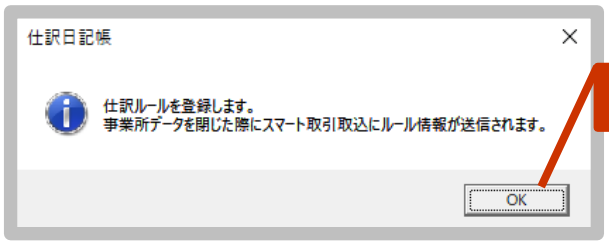
日付	タイプ	借方勘定科目	借方金額	貸方勘定科目	貸方金額	摘要
伝票No.	生成元	借方補助科目	消費税額	貸方補助科目	消費税額	借方税区分
		借方部門		貸方部門		
04/01		預り金	175,200	普通預金	175,200	源泉所得税支払
64	[口座]			弥生銀行(サンプル		
04/01		普通預金	2,500,000	売掛金	2,500,000	ヤヨイデザイン　掛代金支払
65	[口座]	弥生銀行(サンプル		ヤヨイデザイン		

2. 源泉所得税支払の仕訳を選択して、ショートカットメニューから仕訳ルールへ登録します。

借方勘定科目	借方金額	貸方勘定科目	貸方金額	摘要
借方補助科目	消費税額	貸方補助科目	消費税額	借方税区分
借方部門		貸方部門		
預り金	175,200	普通預金	175,200	源泉所得税支払
		弥生銀行(サンプル		

1 仕訳を選択して、右クリック

2 クリック



3 クリック

3. 会計ソフトを一旦終了して、再度、会計ソフトを起動します。

会計ソフトを終了する理由は？

事業所データを閉じた際に、登録したルールがスマート取引取込の「仕訳ルール設定」に登録されるためです。
登録したルールは、次回会計ソフトを起動してスマート取引取込を行った際に適用されます。

以上が、スマート取引取込を利用して取引データを仕訳として取り込む手順です。

最後に

学習が終わったら、修正履歴の学習や設定したルールが次回の取り込み時に反映、適用されることを確認してみましょう。

取り込む明細は、CSV ファイルの銀行明細とカード明細を使用します。
※　弥生銀行は口座連携していますが、ここでは修正履歴の反映を確認するために CSV ファイルを使用します。
※　明細には「軽減税率」と「請求書区分」の項目はありません。CSV ファイルを取り込む際の設定は不要です。

使用する CSV ファイルは、事業所データの会計期間によって異なります。P25 を参照してください。
「CSV ファイル取込」の操作手順は P15 をご参照ください。取り込み時の設定に迷った方は以下をご指定ください。

弥生銀行の CSV ファイル

取込開始行：　2 行目
勘 定 科 目 ：　普通預金
補 助 科 目 ：　弥生銀行（サンプル）

VISA カードの CSV ファイル

取込開始行：　2 行目
勘 定 科 目 ：　未払金
補 助 科 目 ：　VISA カード

＜取込結果 「未確定の取引」＞

日付は昇順で表示しています。 日付 ▲

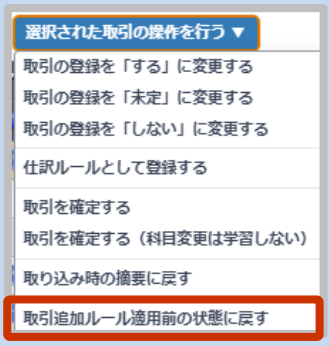
「仕訳ルール」や「取引追加ルール」が適用された取引にはマークが付きます。両方のルールが適用された取引には 2 つのマークを組み合わせた右図のマークが付きます。
参照：P29、P32

修正履歴の学習、「仕訳ルール」の適用により、摘要文字と科目が表示されます。
参照：P28、P37
※　修正履歴の学習、ルールの適用がされる前の摘要文字は CSV ファイルを開くか、画面の摘要にマウスポインタを合わせると表示される吹き出しで確認してください。

アイコン	取引手段		摘要	金額	勘定科目	補助科目	取引の登録
	勘定科目	補助科目					
	未払金	VISAカード	チューリッヒ保険 保険料	-5,000	保険料		する 未定 しない
	未払金	VISAカード	ピザハット 社内会議飲食代	-2,360	会議費		する 未定 しない
	未払金	VISAカード	サンドラッグ 社内常備薬	-1,260	福利厚生費		する 未定 しない
	普通預金	弥生銀行(サンプル)	源泉所得税支払	-180,000	預り金		する 未定 しない
	普通預金ほか	弥生銀行(サンプル)ほか	ヤヨイデザイン　掛代金支払	100,000	売掛金	ヤヨイデザイン	する 未定 しない
	普通預金	弥生銀行(サンプル)	ヤヨイデザイン　掛代金支払	99,120	売掛金	ヤヨイデザイン	
	支払手数料		ヤヨイデザイン　掛代金支払	880	売掛金	ヤヨイデザイン	

「取引追加ルール」の設定により、支払手数料の取引が追加されて表示されます。
参照：P32
※　ルールが適用される前の取引や金額は、CSV ファイルを開いてご確認ください。

意図しない取引になっている場合は、「選択された取引の操作を行う」から「取引追加ルール適用前の状態に戻す」を選択することで、ルール適用前（分割／追加前）の状態に戻すことができます。（右図）



「仕訳ルール」が適用された取引は「する」に変わります。
参照：
P28、P37

以上で本手順書での学習は終了です。　お疲れ様でした。